

平成26年度

全学教育機構 履修の手引き

佐賀大学 全学教育機構

平成26年度 全学教育機構 履修の手引き

1 はじめに：履修に際しての留意点

1-1 学部・学科・課程の記号

佐賀大学（以下では、本学といいます。）で皆さんが学ぶ教育課程は、主に各学部において実施される専門教育科目と、主に全学教育機構で実施される教養教育科目から構成されています。（P 4 下図参照）この「履修の手引き」では、全学教育機構が開講する教養教育科目及び専門教育科目を履修する際に必要な事柄について説明します。

全学教育機構における教育課程は、本学のすべての学生が履修します。授業科目によっては、あらゆる学部の学生と一緒に受講しますが、学部や学科・課程が指定されたクラスで受講する場合があります。この「履修の手引き」や時間割などでクラスを指定する際には、学部・学科・課程を表す数字を記号として用いる場合があります。この3桁の数字は、次のように構成された皆さんの学籍番号（8桁）の一部です。

学籍番号の構成	<u>1 4</u>	<u>1 1 1</u>	<u>1 2 3</u>
	入学年次	学部・学科・課程	連番

学部・学科・課程の記号

文化教育学部	学校教育課程	1 1 1
	国際文化課程	1 1 2
	人間環境課程	1 1 3
	美術・工芸課程	1 1 4
経済学部	経済学科	1 4 1
	経営学科	1 4 2
	経済法学科	1 4 3
医学部	医学科	2 1 1
	看護学科	2 1 2
理工学部	数理科学科	2 3 1
	物理科学科	2 3 2
	知能情報システム学科	2 3 3
	機能物質化学科	2 3 4
	機械システム工学科	2 3 5
	電気電子工学科	2 3 6
	都市工学科	2 3 7
農学部	応用生物科学科	2 5 1
	生物環境科学科	2 5 2
	生命機能科学科	2 5 3

なお、専門教育科目の履修においては、さらに選修やコースなどのクラス分けを行う場合がありますので、注意してください。

1-2 授業と単位

1-2-1 単位制度

本学をはじめ、多くの大学の教育課程は「単位制度」に基づいています。皆さんは、全学教育機構や学部のような授業科目を、自由に選択して、あるいは指定されたクラスにおいて履修しますが、これらの授業科目を履修し、試験やレポートなどで合格の評価を受ければ、それぞれの授業科目ごとに一定数の「単位」が与えられます。本学の授業科目は、講義、演習、実験、実習もしくは実技といった種類からなり、これらの種類によって、与えられる単位数が異なりますが、皆さんが本学の教育課程を修了するためには、それぞれの学部が定める科目ごとの単位数をすべて満たさなければなりません。教養教育に関する科目について各学部が定める「卒業に必要な教養教育科目の単位数」については、8頁の表を参照してください。

1-2-2 授業の種類と単位数

本学における学期は前学期と後学期とに分かれています。多くの授業は、各学期とも、毎週1回、90分の授業時間をもって開講されます。本学の授業科目は、原則として、15回の授業と1回の定期試験をもって構成されます。教養教育科目において授業科目ごとに与えられる単位数は、次の通りです。

- | | | |
|----------------------------|---|------|
| • 大学入門科目 | } | 各2単位 |
| • 健康・スポーツ科目の「健康スポーツ科学」(講義) | | |
| • 情報リテラシー科目の「情報基礎概論」(講義) | | |
| • 外国語科目の「日本語」(演習) | | |
| • 基本教養科目 | | |
| • インターフェース科目 | } | 各1単位 |
| • 外国語科目(日本語を除く) | | |
| • 健康・スポーツ科目の「スポーツ実習」(実習) | | |
| • 情報リテラシー科目の「情報基礎演習」(演習) | | |

1-2-3 授業と自学自習

本学の学則では、1単位の授業科目を、「45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定め、また各授業の種類ごとの単位数を次のように定めています。

- ① 講義については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位
- ② 演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位
- ③ 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位

本学では、90分の授業を2時間の授業とみなしますが、学則に従うと、例えば2単位の授業科目であれば90時間の学修内容が必要であるにもかかわらず、15回の授業だけでは30時間の学修内容に過ぎません。2単位の修得に必要な学習内容を構成する残りの60時間は、実は皆さんが行う「自学自習」の時間です。このことから判るように、大学における学修にとっては、授業も大切な学修ですが、それとともに、授業のための予習や復習、あるいは授業の内容にかかわる様々な問題を沈思黙考する時間もまた不可欠なのです。

本学では、後で少し詳しく説明します「シラバス」(授業の目的・内容・到達目標など、授業概要を記したもの)において、皆さんが行う「授業以外の学習」を毎回の授業ごとに指示します。授業を受け、単位を修得し、本学の学生として必要な能力を身に付けるために、この「自学自習」は、決して怠ることなく、着実に行ってください。ある大学での調査結果によれば、大学4年生の状況に最も大きく作用している要因は、

高等学校での成績でも、入学試験の成績でもなく、大学に入った当初における学修内容なのだそうです。1年次、2年次での弛まぬ努力こそが、4年後に立派な果実をもたらすことになるはずです。

1-3 シラバス

授業の概要を記したものを「シラバス」と言います。シラバスには、授業科目名、授業の開講年度・学期・曜日校時、授業担当教員、単位数のほか、講義概要、到達目標、授業計画、授業以外の学習、成績評価の方法と基準、テキスト、参考図書など、授業科目についての様々な情報が記載されています。シラバスは、教務システム=Live Campus（※1）を通してパソコンで見ることができます。45頁の「オンライン・シラバス（授業概要）参照方法」を見て、実際にシラバス検索してみてください。

※1 Live Campus の利用方法は、入学後第1回目の情報リテラシー科目等の授業で説明されます。

なお、Live Campus では、シラバスを検索して参照したり、履修登録を行うほか、各自の履修登録状況を表示した時間割、成績状況（単位の取得状況）、授業に関する連絡などが参照できます。

1-4 履修登録

授業科目を履修し単位を修得するためには、履修する学期の初めに「履修登録」が必要です。履修登録をしていない授業科目は、試験を受けても、原則として単位が認められず、履修が無効となります。履修登録は、皆さん自らが、学内のパソコンから Live Campus を通して行います。大学の授業は、学生自身が、履修しなければならない授業科目を調べ、履修したい授業科目を選択し、そして自らの責任で履修登録を行わなければなりません。大学では、自由が与えられると共に自己責任が求められます。このことは、十分に自覚しておく必要があります。

1-5 大学からの連絡と掲示板

シラバスを参照したり履修登録を行うときには、便利な道具である Live Campus を利用します。しかし、Live Campus から皆さんにとって必要なすべての情報が得られる訳ではありません。履修関係のほか、試験・成績などに関する重要な連絡は、原則として掲示板により行います。掲示板には重要な連絡事項だけでなく、教員からの呼び出しや連絡事項が張り出されることもあります。

本庄キャンパスの教養教育大講義室前の広場には教務関係掲示板が、鍋島キャンパスには医学部学務掲示板が設置されています。「大学に行ったら、まず掲示板を見る」という習慣を身につけてください。

2 佐賀大学の教育課程

2-1 佐賀大学の教育目的

本学は教育の目的を、「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成する」（佐賀大学学則第2条）、と定めています。本学は皆さんを、世界を見据え、豊かな教養と深い専門知識を身につけ、こうした知識をもって社会を生き抜く人間となるように教育します。本学が皆さんに望むのは、社会を生きる力です。大学を出た後も、生涯学んでいける力です。

皆さんはそれぞれ、学びたい分野を定めて学部・学科・課程を選択し、本学に入学しました。これから皆さんは、それぞれの学部の学科や課程の専門教育課程で、高度な専門知識・技術・技能を身につけていきます。しかし、こうした高度な知識・技術・技能も、使い方が悪ければ、必ずしも社会の役に立つとは限りません。知識・技術・技能を用いるのは人間です。これらの知識・技術・技能をどこに、どのように使うのか、このことは殊に複雑な現代社会にとっては大きな問題です。知識や技術や技能が高度になればなるほど、それを用いる豊かな人間性がますます求められます。本学が「豊かな教養」を重視する理由がここにあります。

2-2 佐賀大学学士力

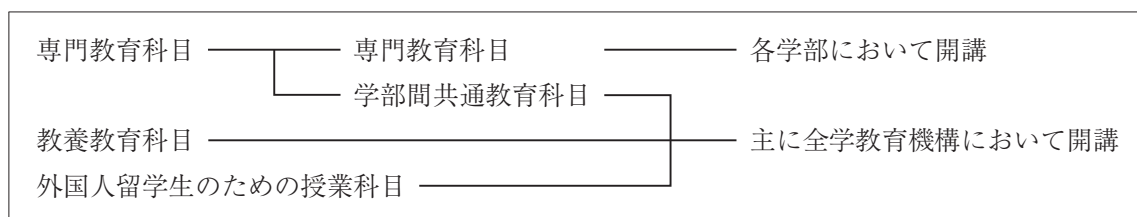
皆さんは卒業までに、大学で学んだと言えだけの、高いさまざまな能力を身につけなければなりません。本学では、各学部が定めた教育課程（これを学士課程といいます。卒業するときには学士の学位が与えられます。）で学ぶ皆さんが卒業までに身につける能力の目標を「佐賀大学学士力」として定めています。「佐賀大学学士力」は、体系的で順次的な構造を持っています。皆さんは、まず、学士課程で学ぶための「基礎的な能力」を身につけ、その上で現代社会や専門分野で「課題を発見し・解決する能力」を身につけ、そして最後に「個人と社会の持続的な発展を支える力」を身につけます。各学部の学士課程は、こうした「佐賀大学学士力」の付与を目標とし、共通した教養分野の教育とそれぞれ独自の専門分野の教育により、学部・学科・課程の教育課程を編成しています。佐賀大学学士力については、次の頁を見てください。

2-3 教養教育と全学教育機構

本学が開講する専門教育科目と教養教育科目のうち、専門教育科目は、主に各学部において開講されます。学部が開講する専門教育科目については、それぞれの学部で詳しく説明します。

教養教育科目は全学教育機構が担います。全学教育機構の目的は「本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証に資する」ことです。全学教育機構は教養教育科目だけでなく、学部の枠を超えた専門教育科目や外国人留学生のための科目も開講します。以下では、全学教育機構が開講する科目について説明します。

佐賀大学の教育課程



佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

1. 基礎的な知識と技能

(1) 文化と自然

世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化（芸術及びスポーツを含む）的素養を身につけている。

(2) 現代社会と生活

健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。

(3) 言語・情報・科学リテラシー

① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる。

② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。

③ 科学的素養を有し、合理的及び論理的な判断ができる。

(4) 専門分野の基礎的な知識と技法

専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。

(3) 課題解決につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 持続的な学習力と社会への参画力

様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身に付けている。

備考

1. 各項目の実施組織及び実施方法は、別に定める。
2. 各項目に対応する授業科目の数・単位数は、学部が定めるところによる。

3 教養教育の教育課程

3-1 教育課程の編成

本学の教養教育は、学士課程教育の質の保証に資することを目的とし、皆さんが、社会の一員として必要な教養を身につけ、自ら高い市民性を涵養することを教育理念としています。このような教育理念を実現するために、全学教育機構は、各学部と協議して教養教育の教育課程を編成し、全学教育機構(一部は各学部)において実施します。教養教育の教育課程は、次のような内容の科目によって構成されます。また、各科目に含まれる授業科目については、次頁の佐賀大学の教養教育課程と佐賀大学学士力の表に示しています。これらの科目の概要については、23頁以降で詳しく説明します。

科 目	内 容
大学入門科目	高等学校と大学との教育の接続を図ります。
共通基礎科目	英語能力を向上させ、その他の外国語の学びの機会を提供し、また、健康・スポーツ科目や情報リテラシー科目の履修により、高度技術社会のなかで求められる知識や技能の修得を図ります。
基本教養科目	市民社会の諸相を「自然科学・技術」「文化」「社会」の視点から学びます。
インターフェース科目	大学で学んだことと社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成します。

3-2 佐賀大学学士力と教養教育課程

佐賀大学学士力については先に述べましたが、教養教育課程の各授業科目はそれぞれ、佐賀大学学士力の項目と対応しています。どの授業科目が佐賀大学学士力のどの項目に対応しているかは、次頁の佐賀大学の教養教育課程と佐賀大学学士力の表を見てください。皆さんが授業科目を履修する際には、その授業科目がどのような能力を身に付けるためのものであるかを十分に意識し、これを念頭に授業に臨むことが重要です。

佐賀大学学士力と教養教育課程

佐賀大学学士力		教養教育科目												
大項目	小項目	大学入門科目		共通基礎科目						基本教養科目			インターフェース科目	
				外国語科目	健康・スポーツ科目	シラー科目		情報リテラ	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野			
						講義	実習					講義		演習
		大学入門科目Ⅰ	大学入門科目Ⅱ	英語	ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語	健康スポーツ科学	スポーツ実習Ⅰ	スポーツ実習Ⅱ	情報基礎概論	情報基礎演習Ⅰ	情報基礎演習Ⅱ			
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然										○	○		
	(2) 現代社会と生活					○	○	○						○
	(3) 言語・情報・科学リテラシー		○	○	○				○	○	○	○		
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技法													
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	○	○											○
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力													
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	○	○											○
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力													○
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力													○
	(3) 高い倫理観と社会的責任感													○

3-3 卒業に必要な教養教育科目の単位数

皆さんが学士課程を終えて卒業するために必要な教養教育の単位数は、各学部の学科や課程ごとに定められています。卒業に必要な教養教育の単位数は、次の表の通りです。自分の学科や課程では、どの授業科目が何単位必要なのかを確認して、履修計画を立てることが必要です。

卒業に必要な教養教育の単位数

学部・学科・課程		教養教育科目														
		大学入門科目		共通基礎科目								基本教養科目			インターフェース科目	合計
				外国語科目	健康・スポーツ科目			シー情報リテラ科目		自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野				
					英語	ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語	講義	実習	講義				演習	情報基礎概論		
文化教育学部	学校教育課程	2		4		2	1	1	2	1		8		8	29	
	国際文化課程	2	2	4		2	1	1	2	1		10		8	33	
	人間環境課程	2		2	2	2	1	1	2	1		10		8	31	
	美術・工芸課程	2		4		2	1	1	2	1		10		8	31	
経済学部	経済学科	2		4	4	2	1	1	2			12		8	36	
	経営学科	2		4	4	2	1	1	2			12		8	36	
	経済法学科	2		4	4	2	1	1	2			12		8	36	
医学部	医学科	4		4	2				2	1		12		8	33	
	看護学科	2		4	2				2			12		8	30	
理工学部	数理科学科	2	2	4	4	2	1	1				10		8	34	
	物理科学科	2	2	4	4	2	1	1				12		8	36	
	知能情報システム学科	2	2	4	2	2	1	1	2	1	4	8	8	37		
	機能物質化学科	2	2	4			1	1		1	1	12		8	32	
	機械システム工学科	2	2	4	2		1	1		1	1	8		8	30	
	電気電子工学科	2	2	4	2	2	1	1	2	1	10		8	35		
	都市工学科	2	2	4	2	2	1	1	2	1	8		8	33		
農学部	応用生物科学科	2		4	4	2	1	1	2	1		12		8	37	
	生物環境科学科	2		4	4	2	1	1	2	1		12		8	37	
	生命機能科学科	2		4	4	2	1	1	2	1		12		8	37	

備考 文化教育学部美術・工芸課程の外国語科目については、4単位（英語4単位又は英語2単位及びドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語のいずれか2単位）を修得しなければならない。

また、各学部は、学科・課程ごとに、教養教育科目をどのように履修しなければならないか、という履修の方法を定めています。詳細は各学部の「履修細則」などをよく読み、間違いがないかを確認しながら、履修するようにしてください。

基本教養科目の履修方法等

学部・学科・課程		履修方法
文化教育学部	学校教育課程	日本国憲法を含み、各分野から2単位以上、計8単位以上を履修する。
	国際文化課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
	人間環境課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
	美術・工芸課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
経済学部	経済学科	各分野から4単位以上、計12単位以上を履修する。
	経営学科	各分野から4単位以上、計12単位以上を履修する。
	経済法学科	各分野から4単位以上、計12単位以上を履修する。
医学部	医学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
	看護学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
理工学部	数理科学科	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
	物理科学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
	知能情報システム学科	自然科学と技術の分野から4単位以上、文化の分野及び現代社会の分野から8単位以上、計12単位以上を履修する。
	機能物質化学科	文化の分野及び現代社会の分野の各分野から2単位以上、両分野併せて計12単位以上を履修する。
	機械システム工学科	文化の分野及び現代社会の分野の各分野から2単位以上、両分野併せて計8単位以上を履修する。
	電気電子工学科	文化の分野及び現代社会の分野から6単位以上、計10単位以上を履修する。
	都市工学科	計8単位以上を履修する。
農学部	応用生物科学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
	生物環境科学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
	生命機能科学科	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。

3-4 教養教育の学年進行

皆さんは、所属する学科・課程が定めた卒業に必要な教養教育の単位を修得しなければなりません。しかし、むやみにどの授業科目からでも履修を始めてよい、というわけではありません。教養教育の教育課程も専門教育と同様に、体系的・順次的に作られていますので、それぞれの授業科目は、必要な学修の段階を追って履修しなければなりません。

下の表は、教養教育科目の標準的な履修モデルです。履修計画は、自分の学科・課程での卒業に必要な授業科目及び単位数を確認し、この履修モデルを例にして、立ててください。

全学教育機構教養教育課程の標準的な履修モデル

								医学部医学科	
		1年次		2年次		3年次	4年次	5年次	6年次
		前	後	前	後				
大学入門科目		2	2						
外国語科目	英語	1	1	1	1				
	初修外国語	1	1	1	1				
健康・スポーツ科目	スポーツ実習	1	1						
	健康スポーツ科学	2							
情報リテラシー科目	情報基礎演習	1							
	情報基礎概論	2							
基本教養科目		6		4					
インターフェース科目				4		2	2		

3-5 教育職員免許状取得の要件となる授業科目

本学では、多くの学部で様々な教育職員免許状が取得できます。教育職員免許状を取得する場合には、専門教育科目以外にも、教育職員免許法施行規則の第66条の6において、「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」、及び「情報機器の操作」の修得が義務づけられています。本学ではこれらの授業科目の多くを全学教育機構で開講していますが、教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」については基本教養科目・現代社会の分野の「日本国憲法」2単位を、「外国語コミュニケーション」については共通基礎科目の外国語科目（「日本語」は除きます。）から2単位を、「体育」については共通基礎科目の「スポーツ実習」の2単位を修得しなければなりません。ただし、「情報機器の操作」については各学部・学科・課程で必要な科目・単位が異なりますので、各学部の履修細則によって確認してください。

4 教養教育科目の履修方法

以下では、教養教育課程の授業科目の履修方法について説明します。

4-1 大学入門科目

大学入門科目は、二つの授業科目に分かれています。一つは、新入生に必要とされる学習及び生活上のガイダンスや、各学部の特性に応じた導入教育などを内容とする「大学入門科目Ⅰ」です。もう一つは、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを内容とする「大学入門科目Ⅱ」です。大学入門科目は、教養教育科目ですが、各学部が、各学部の教育方針に沿って開講します。学科や課程によっては、「大学入門科目Ⅰ」を前学期と後学期を通じて開講する場合や、また「大学入門科目Ⅱ」を開講しない場合がありますので、注意してください。

4-2 共通基礎科目

共通基礎科目は、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報リテラシー科目」に分かれますが、「外国語科目」は「英語」と、「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「朝鮮語」（これらを便宜的に「初修外国語」と呼びます。）、それに「日本語」からなります。「健康・スポーツ科目」は、「健康スポーツ科学」と「スポーツ実習」からなります。また「情報リテラシー科目」は「情報基礎概論」と「情報基礎演習」からなっています。

4-2-1 外国語科目

a) 英語

英語は、「英語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる」力の修得を目標とし、1年次の前学期に「英語A」を、後学期に「英語B」を、2年次の前学期に「英語C」を、後学期に「英語D」を開講します。ただし医学部の学生は、1年次の前学期に「英語A」及び「英語B」を、後学期に「英語C」及び「英語D」を開講します。英語の授業では、それぞれの学部（一部は学科）ごとに、受講するクラスが指定されます。英語の授業は、指定されたクラスにおいて受講しなければなりません。「英語B」「英語C」「英語D」は1年次の前学期に実施するTOEIC-IPの成績によって習熟度別クラス編成を行います。まず、自分が受講するクラスを確認しましょう。（ただし医学部では習熟度別クラス編成は採用していません。）

後に述べる「留学支援英語教育カリキュラム」の履修を認められた学生は、カリキュラムが指定する英語の授業科目を履修します。これらの授業科目の履修は、卒業に必要な授業科目である「英語A」、「英語B」、「英語C」、「英語D」を履修したものと見なされます。どの授業科目の履修がどの授業科目の履修に対応するかは、下の表を見てください。

留学支援英語教育カリキュラムの英語授業科目と履修したものと見なす授業科目との対応表

履修する授業科目	単位数	履修したものと見なす科目	単位数
Intercultural English : Awakenings	1	英語A	1
Integrated Speaking : Awakenings	1		
Intercultural English : Bridging	1	英語B	1
Integrated Writing : Awakenings	1		
Integrated Writing : Bridging	1	英語C	1
English Test Success : TOEFL I	1		
Integrated Speaking : Bridging	1	英語D	1
English Test Success : TOEFL II	1		

b) 初修外国語

初修外国語は、「初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる」力の修得を目標とします。初修外国語には、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の科目が設けられていますが、それぞれの初修外国語科目は、1年次の前学期にⅠaを、後学期にⅠbを、2年次の前学期にⅡaを、後学期にⅡbを開講します。例えば「ドイツ語Ⅰa」（1年次前学期）、「ドイツ語Ⅰb」（1年次後学期）、「ドイツ語Ⅱa」（2年次前学期）、「ドイツ語Ⅱb」（2年次後学期）といった具合です。これらの科目は、学部（一部は学科）ごとに同じ曜日に開講されます。各授業科目とも、受講するクラスが指定されますので、指定されたクラスで受講してください。

c) 日本語

日本語は、外国人留学生を対象とし、「日本語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる」力の修得を目標とします。日本語は「日本語Ⅰ」と「日本語Ⅱ」からなります。「日本語Ⅰ」は前学期に、「日本語Ⅱ」は後学期に開講されますが、それぞれの科目とも、1週に2回の授業を行う2単位科目ですので、週に2回ある授業科目の開講曜日と校時を確認してください。また「日本語Ⅰ」及び「日本語Ⅱ」とも、各学期の最初におこなうプレースメントテストによって、日本語の能力に応じたクラスを編成します。

d) 外国語科目を履修する際のその他の注意事項

① 外国人留学生の外国語科目履修についての特例（一般入試で合格し、入学した外国人留学生を除く）

外国人留学生は、母語以外の外国語科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、日本語）のうちから、2科目または1科目を選択して履修することができます。つまり、1科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて英語以外の外国語を4単位あるいは2単位（たとえば「日本語Ⅰ」と「日本語Ⅱ」を4単位あるいは2単位）修得することができます。また2科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて英語以外の外国語科目を4単位（あるいは2単位）修得し、さらにそれら以外の外国語科目から4単位（あるいは2単位）を修得することができます。

② 初修外国語科目が卒業に必要な単位数に指定されていない学科・課程の学生の履修

英語以外の外国語科目が必修ではない学科・課程でも、希望により履修することができます。ただし、時間割によっては、希望どおりのクラスで受講することがむずかしいこともあります。この授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まれませんが、在学中に修得した単位数としては認められます。

③ 海外語学研修プログラムによる履修

全学教育機構には、海外語学研修プログラムがあります。海外語学研修プログラムを修了すると、全学教育機構の外国語科目の単位としての認定を受けることができます。ただし英語について認定を受けることができる授業科目は「英語B」と「英語C」です。対象となる研修プログラムは、実施計画が出来た段階で、掲示によりお知らせします。

④ 各種外国語能力・技能検定試験の単位認定

各種の語学能力・技能検定試験を受験し一定の成績をおさめれば、その成績結果を、外国語科目の単位として認定することがあります。認定する外国語能力・技能検定試験、及びそれぞれの検定試験成績の認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価については、次頁の表を見てください。これらの検定試験で認定基準となる成績を取得し、認定を希望する場合には、原則として、学期始めの指定された期間内に、申請書及び合格を証明する書類を、教養教育教務に提出してください。

ただし、次の点に注意してください。

- (a) 認定される科目ですでに修得した単位がある場合には、卒業に必要な単位数に不足している単位数までが認定されます。(たとえばドイツ語で、すでに2単位を修得している場合には、独検で3級を取得し4単位の認定を申請しても、認定されるのは2単位までです。)
- (b) 英語について、複数の能力・技能検定試験で同一レベルの成績を取得している場合には、1種類の成績だけが認定の対象となります。

単位認定の対象となる外国語能力・技能検定試験

外国語の種類	外国語能力・技能検定試験
英語	TOEIC (TOEIC-IPを含む)、TOEFL-IBT (TOEFL-ITPを含む)、英検 (実用英語技能検定試験)
ドイツ語	独検 (ドイツ語技能検定試験)
フランス語	仏検 (実用フランス語技能検定試験)
中国語	中検 (中国語検定試験)

英語

認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価

能力・技能検定試験と認定基準				認定科目	認定単位数	評価
TOEFL - ITP	TOEFL - IBT	TOEIC (TOEIC - IPを含む)	英検			
520 - 560	68 - 83	640 - 760	準1級	英語B	1単位	認定
561以上	84以上	765以上	1級	英語C	2単位まで	

初修外国語

能力・技能検定試験	認定基準	認定科目	認定単位数	評価
独検 (ドイツ語技能検定試験)	4級	ドイツ語Ⅰa、Ⅰb	2単位まで	認定
	3級以上	ドイツ語Ⅰa、Ⅰb及び ドイツ語Ⅱa、Ⅱb	4単位まで	
仏検 (実用フランス語技能検定試験)	4級	フランス語Ⅰa、Ⅰb	2単位まで	
	3級以上	フランス語Ⅰa、Ⅰb及び フランス語Ⅱa、Ⅱb	4単位まで	
中検 (中国語検定試験)	4級	中国語Ⅰa、Ⅰb	2単位まで	
	3級以上	中国語Ⅰa、Ⅰb及び 中国語Ⅱa、Ⅱb	4単位まで	

⑤ 全学統一英語能力テスト (TOEIC) の実施

佐賀大学では、英語学習について明確な学習目標を与えることで、学生の皆さんの自律的かつ持続的学習を促すとともに、入学後の英語力の推移を測定・検証し、本学の英語教育の改善と大学全体としての英語力の向上を図るため、平成25年度の入学生から、次のとおり TOEIC-IP テストを受験させることとなりました。なお、実施日時、実施場所等の詳細については、学年暦や通知等で別途周知します。

○文化教育学部、経済学部、理工学部及び農学部の学生

1年次の前学期 (6月～7月) に受験し、その結果を1年次後学期に開講する英語Bおよび2年次に開講する英語C・英語Dのクラス分けに利用します。また、2年次の後学期 (1月～2月) の受験結果については、英語Dの成績評価の一部 (30%) として利用します。

○医学部の学生

1 年次の前学期（6 月～7 月）に受験し、その結果を英語 B の成績評価の一部（30％）として利用します。また、1 年次の後学期（1 月～2 月）の受験結果については、英語 D の成績評価の一部（30％）として利用します。

4-2-2 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、「健康な生活に関する知識の修得」を目標とする「健康スポーツ科学」（講義科目 2 単位）と「市民性の涵養の前提となる自己の健康やメンタルヘルスの保証」を目標とする「スポーツ実習」（実習科目各 1 単位）によって構成されています。「スポーツ実習」は「スポーツ実習Ⅰ」と「スポーツ実習Ⅱ」を履修してください。そして、学部・学科・課程ごとに受講するクラスが指定されていますので、1 年次では指定されたクラスで受講してください。

第 1 回の授業は、オリエンテーションでコース分けを行いますので、筆記用具を持参して、必ず参加してください。

4-2-3 情報リテラシー科目

情報リテラシー科目は、「情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理する」力の修得を目標とする「情報基礎概論」と、「情報及び情報を処理する技術」の修得を目標とする「情報基礎演習」とによって構成されます。「情報基礎概論」は講義科目（2 単位）、「情報基礎演習」は演習科目（1 単位）です。「情報基礎演習」は、「情報基礎演習Ⅰ」と「情報基礎演習Ⅱ」とに分かれます。「情報基礎概論」、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」は、各学部・学科・課程が必要に応じて開講しますので、所属する学科・課程が履修を要するかどうかを「履修細則」などで確認してください。

4-3 基本教養科目

4-3-1 基本教養科目の教育目標・目的・内容

基本教養科目は、「世界を認識するための幅広い知識」や「健全な社会や健康的な生活に関する知識」を修得し、高い市民性を培うことを教育目標とします。基本教養科目は、原則として 1 年次及び 2 年次に履修します。各学部の「履修の手引き」などに記載されている「履修細則」や、各学部・学科・課程が定める卒業に必要な単位数（8 頁を参照してください。）と履修方法（9 頁の表を参照してください。）に従って、「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から選択して履修してください。各分野の授業科目の目的と内容は、次のとおりです。

分野	授業科目の目的と内容
自然科学と技術	自然を科学的な目で認識し、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけることを目的とし、科学・技術の基本的な概念・科学的思考方法・科学的認識の歴史などや、現代社会における科学・技術の役割と限界などを内容とする。
文化	文化の捉え方・文化の違いや歴史的変遷などの理解によって文化という観点から世界を認識し、その下に行動する素養を身につけることを目的とし、文学と芸術、言語と表現、歴史と文化などを内容とする。
現代社会	現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につけることを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の構造などを内容とする。

4-3-2 授業科目の選択

授業科目は、「開講一覧」（47頁以下を参照してください。）と時間割を確認して、選択してください。各分野の「区分」は、授業科目を便宜的に整理したものですので、どの区分から選択しても構いません。ただし、授業科目の内容によっては、受講できない学科や課程、または学年が指定されている授業科目がありますので、選択する際には、シラバスをよく読んで確認してください。また、後に述べる「留学支援英語教育カリキュラム」及び「全学共通の教育プログラム」の履修を認められた学生は、それぞれのカリキュラム、プログラムが指定する授業科目を優先して選択し、その上で、卒業に必要な基本教養科目の単位数を満たすために必要な授業科目を選択してください。履修する順序は、特に指定がなければどの授業科目が先でも構いません。

4-3-3 授業科目の履修登録と抽選

履修を希望する基本教養科目の授業科目は、学期ごとに指定された期間内に履修登録をしなければなりません。各授業科目の履修希望者が150人を超えた場合や、使用する教室の収容可能な人数を超えた場合、また授業を効果的に行うために必要な人数の制限を超えた場合には、抽選を行って履修者を決定します。もし、抽選に漏れた場合には、人数に余裕のある別の授業科目への履修登録を行うことができますので、履修者決定についての掲示に注意しておいてください。

4-3-4 総合科目

基本教養科目には、総合科目として「合宿共同授業」、「国際交流実習」及び「キャリアデザイン」を設けています。

(1) 合宿共同授業

合宿共同授業は、九州・沖縄の国立大学の学生が参加する九州地区国立大学間合宿共同授業として開講されます。授業は、事前学習と学外における合宿学習とによって行われます。合宿では、九州・沖縄の国立大学の学生と教員とが一堂に集まり、寝食を共にしながら交流を深め、一定のテーマについて多面的に講義や討論を行います。この授業の履修は本学の基本教養科目の履修として各分野いずれかの単位数に含めることができます。授業計画がまとめ次第、履修希望者を募りますので、掲示に注意しておいてください。

(2) 国際交流実習

国際交流実習は、大学が定めた海外での様々な学習活動プログラムに基づいて行われる授業です。この授業科目の履修もまた本学の基本教養科目の履修として認定され各分野いずれかの単位数に含めることができます。授業計画がまとめ次第、履修希望者を募りますので、掲示に注意しておいてください。

(3) キャリアデザイン

キャリアデザインは、自らの興味や適性を明瞭に把握し、社会で実際に働く人々の体験などを聴くことによって、社会に出てから積み重ねてゆく仕事の将来設計を行う科目です。この授業科目も、基本教養科目の各分野いずれかの単位数に含めることができます。

4-3-5 その他の注意事項

(1) 外国人留学生向けの授業科目：「日本事情」

外国人留学生は、基本教養科目として「日本事情」を履修することができます。「日本事情」は、「日本事情（自然科学と技術）」、「日本事情（文化）」、「日本事情（現代社会）」からなりますが、「日本事情（自然科学と技術）」は自然科学と技術の分野の、「日本事情（文化）」は文化の分野の、「日本事情（現代社会）」は現代社会の分野の授業科目です。ただし、学部・学科・課程によっては、これらの授業科目のうちで、卒業に必要な単位数に含めることができるものを限定している場合がありますので、履修する際には、この点を各学部の「履修細則」で確認してください。

(2) 他大学との単位互換制度

本学は、西九州大学や放送大学と単位互換協定を締結しているほか、佐賀県内の6大学・短大で構成する大学コンソーシアム佐賀に参加しており、これらの大学で履修した授業科目の単位を本学の卒業要件単位数として認定する制度を作っています。詳細については、下記を参照してください。

学生センター HP 単位互換 <http://www.sa.admin/saga-u.ac.jp/tani.html>

大学コンソーシアム佐賀 HP <http://www.saga-cu.jp/>

4-4 インターフェース科目

4-4-1 インターフェース科目の目的

インターフェース科目は、「現代社会が抱える諸問題に目を向けて課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、社会に対応するための知識・技術・技能や社会を生きるための力を身に付けることにより、学士課程教育で得た知識・技能を社会において十分に活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ことを目標としています。すなわち、インターフェース科目は、専門の知識・技術・技能を身につけた皆さんが、そうした知識・技術・技能を社会に活かすための能力、社会に出て生きてゆくために必要な力を培うための科目です。

4-4-2 インターフェース科目の構成

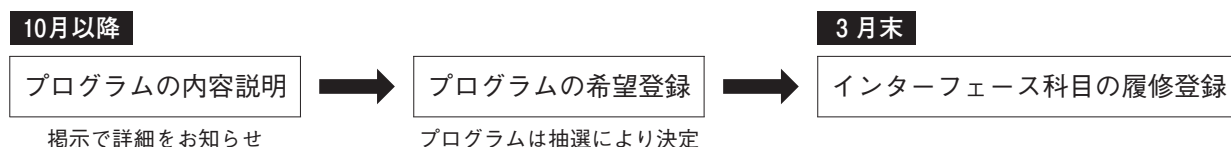
インターフェース科目は、関連する4つの授業科目からなる複数の「インターフェースプログラム」と、プログラムの担当教員が必要に応じて開講する「インターフェース演習科目」とからなります。プログラムの授業科目は、インターフェースプログラム名にⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの番号が付されています。インターフェースプログラムの授業科目は、講義だけでなく、学生自らが主体的に参加する演習、調査、報告あるいは対話などを組み合わせ、「アクティヴ・ラーニング」を志向します。

4-4-3 インターフェースプログラムの履修方法

インターフェースプログラムは、複数のプログラムから1つのプログラムを選択して登録します。登録したインターフェースプログラムでは、授業科目のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを、原則として順次履修します。インターフェース科目の履修は、原則として2年次以上です。ただし、留学支援英語教育カリキュラムや全学共通の教育プログラムの履修を認められた学生は、予め定められたプログラムを定められた方法によって履修します。インターフェースプログラムでは、4つの授業科目（8単位）をすべて修得しなければなりません。

4-4-4 インターフェースプログラムの登録

インターフェースプログラムの登録を、履修登録とは区別して「プログラム登録」と呼びます。プログラム登録は、原則として、1年次の後学期の終わりまでに行わなければなりません。各インターフェースプログラムの内容、履修の申し込み期間、履修者決定方法等については掲示を出しますので、注意しておいてください。プログラム登録していないインターフェースプログラムの授業科目を履修することはできません。また、インターフェースプログラムの授業科目の履修には、プログラム登録とは別に、履修登録が必要です。3年次に転入学、編入学、再入学した学生は、3年次の前学期にプログラム登録を行うことができます。



4-4-5 インターフェース演習科目

「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。詳しくは、プログラム担当の教員に相談してください。

5 特定の教育プログラム

全学教育機構では、教養教育科目などを利用して、特定の教育目的をもった教育プログラムを実施しています。これらのプログラムは、教養教育課程の教育目的を果たしながら、同時に特定の教育目的を追求するものです。

5-1 留学支援英語教育カリキュラム

留学支援英語教育カリキュラムは、留学への意欲と一定の英語力を有する学生を対象に、主に英語を用いた指導体制と授業科目とによって教育を行うものです。留学支援英語教育カリキュラムの履修を認められた学生は、下の表に掲げる授業科目を履修する必要があります。

ただし、表に掲げる授業科目は卒業に必要な教養教育科目の一部です。不足する授業科目については、各学部・学科・課程の卒業に必要な教養教育科目の単位数を参考に、漏れのないように履修してください。

医学部以外 留学支援英語教育カリキュラムの授業科目及び単位数

科目区分	対応する授業科目及び分野	授業科目	単位数
共通基礎科目	英語 A	Intercultural English : Awakenings	1
		Integrated Speaking : Awakenings	1
	英語 B	Intercultural English : Bridging	1
		Integrated Writing : Awakenings	1
	英語 C	Integrated Writing : Bridging	1
		English Test Success : TOEFL I	1
	英語 D	Integrated Speaking : Bridging	1
		English Test Success : TOEFL II	1
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age	2
		The Natural World	2
	文化の分野	Critical Thinking for the Modern Age	2
		Cultural Metaphors	2
	現代社会の分野	Citizenship Education	2
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2
		Intercultural Communication II	2
		Intercultural Communication III	2
		Intercultural Communication IV	2

医学部 留学支援英語教育カリキュラムの授業科目及び単位数

科目区分	対応する授業科目及び分野	授業科目	単位数
共通基礎科目	英語 A	Intercultural English: Awakenings	1
	英語 B	Intercultural English: Bridging	1
	英語 C	English Test Success: TOEFL I	1
	英語 D	Integrated Speaking: Bridging	1
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age	2
	文化の分野	Cultural Metaphors	2
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2
		Intercultural Communication II	2
		Intercultural Communication III	2
		Intercultural Communication IV	2

5-2 全学共通の教育プログラム

全学共通の教育プログラムは、全学の学生を対象に、全学に共通する教育目的を掲げて教育を行うものです。全学共通の教育プログラムには「デジタル表現技術者養成プログラム」、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」及び「環境キャリア教育プログラム」があります。これらのプログラムは、全学教育機構が開設する科目を活用して実施され、定められた授業科目を履修し、単位を修得した学生には修了証が与えられます。

これらのプログラムへの登録については、1年次の始めに、各プログラムの責任者の教員によって説明が行われます。各プログラムの授業科目、必要な単位数、履修方法、修了要件などについては、配布されるパンフレット等を見てください。（障がい者就労支援コーディネーター養成プログラムの新規募集はありません。）

6 学部間共通教育科目

全学教育機構は、学部に通ずる専門教育を行うために、「学部間共通教育科目」を設けています。「学部間共通教育科目」には、「共通専門基礎科目」、「特定プログラム教育科目」及び「留学生プログラム教育科目」があります。これらの科目は各学部の規定に従って、卒業に必要な専門教育科目の単位数に算入することができます。

6-1 共通専門基礎科目

共通専門基礎科目は、学部に通ずる、一般的で基礎的な専門科目です。共通専門基礎科目の各授業科目は、理工学部及び農学部の必修科目や選択科目となっています。これらの科目の履修については、各学部・学科の「履修細則」によって確認してください。共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な専門教育科目として算入できる単位数は、下表のとおりです。

共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数

学部	学科・課程	授業科目名	単位数	計
理 工 学 部	機能物質化学科	微分積分学基礎Ⅰ	2	10
		微分積分学基礎Ⅱ	2	
		線形代数学基礎Ⅰ	2	
		基礎力学	2	
		基礎電磁気学	2	
	電気電子工学科	基礎力学	2	2
農 学 部	応用生物科学科	基礎数学	2	2
	生物環境科学科	基礎数学	2	2
	生命機能科学科	基礎数学	2	2

6-2 特定プログラム教育科目

特定プログラム教育科目は、全学共通の教育プログラムが設定する授業科目の中で、学部間共通教育科目として開講される専門教育科目です。特定プログラム教育科目の授業科目の履修によって修得した単位は、次の表に示す範囲内で、各学部・学科・課程の卒業に必要な専門教育科目の単位数として算入することができます。

特定プログラム教育科目の履修により修得した単位を
卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学部	学科・課程	単位数			計
		特定プログラム教育科目		留学生プログラム教育科目	
		デジタル表現 技術教育科目	環境キャリア 教育科目		
文化教育学部	学校教育課程	文化教育学部履修細則に定める各課程・選修 ごとの自由選択科目の単位数の範囲内とする。			
	国際文化課程				
	人間環境課程				
	美術・工芸課程				
経 済 学 部	経済学科				
	経営学科				
	経済法学科				
医 学 部	医学科	2			2
	看護学科				
理 工 学 部	数理科学科	2			2
	物理科学科	4			4
	知能情報システム学科				
	機能物質化学科				
	機械システム工学科				
	電気電子工学科				
	都市工学科	8			8
農 学 部	応用生物科学科	10			10
	生物環境科学科	10			10
	生命機能科学科	10			10

7 試験と再履修

7-1 定期試験

全学教育機構の各授業科目を履修した場合には、試験やレポートなどによって成績が判定され、合格者には所定の単位が与えられます。各授業科目の成績評価の方法については、それぞれの授業科目のシラバスに記載されています。試験は、原則として、各学期の終わりに一定の試験期間を掲示して行われます。これを定期試験といいます。これ以外にも、授業中に小テストなどが実施される場合があります。

7-2 追試験

病気などやむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の追試験願を提出して認められた学生には、追試験が実施されます。やむを得ない理由とは、天災、事故、病気、肉親の死亡（二親等以内）、大学院受験、就職試験（日時を指定された会社訪問や説明会を含みます。）です。追試験を希望する場合には、願書に欠席の理由を証明する書類を添えて、公示された定期試験期間の最終日から7日以内に、教養教育教務に提出しなければなりません。ただし、就職試験等で事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合には、事前に願書及び必要な書類を提出しなければなりません。

7-3 再試験

定期試験で不合格と判定された授業科目については、再試験が行われることがあります。ただし、外国語科目の英語については、再試験は行われません。

再試験が行われる授業科目は、修得単位通知書が交付される日に、学生センター掲示板に発表されますので確認してください。再試験の受験を希望する場合には、発表の日から7日以内に、所定の再試験願を、教養教育教務に提出しなければなりません。再試験に合格した場合の成績は、60点とします。

7-4 共通基礎科目の再履修と指定外履修

7-4-1 再履修

履修した授業科目に不合格の判定が下された場合、もしもその科目が卒業に必要な科目であれば、その科目を再履修しなければなりません。再履修は、不合格になったすべての科目について可能ですが、共通基礎科目の場合には、ほとんどの授業科目が履修クラスを指定されていますので、再履修も少し複雑になります。

7-4-2 外国語科目の再履修

(1) 英語

英語の授業科目は英語A、英語B、英語C、英語Dからなりますので、不合格になった同じ授業科目を再履修クラスで受講することになります。例えば「英語B」が不合格になった場合には、「英語B」の再履修クラスとなります。

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語）

初修外国語の再履修は、同じ授業科目であれば（例えば「ドイツ語Ib」は「ドイツ語Ib」で再履修します。）どの学部・学科用のクラスであっても再履修することができます。

(3) 日本語

日本語も同じ授業科目で再履修します。たとえば「日本語Ⅰ」の再履修は「日本語Ⅰ」で行いますが、再履修するクラスは、各学期の初めに行うプレースメントテストで決定されます。

7-4-3 健康・スポーツ科目の再履修

健康・スポーツ科目は、2年次以降に再履修することができます。受講クラスは問いません。ただし、「スポーツ実習」の場合には、1つの学期に再履修できる単位数は1単位までです。

7-4-4 情報リテラシー科目の再履修

情報リテラシー科目は、2年次以降に再履修ができます。再履修するクラスは、原則として、所属する学部・学科用のクラスとしますが、この指定クラスでの再履修が困難な場合には、指定クラスの教員及び希望するクラスの教員の許可が得られれば、希望するクラスで再履修することができます。

7-4-5 指定外履修

指定されたクラスでの再履修が、専門教育科目の必修科目等と重なり困難である場合には、申し出により、指定されたクラス以外での履修が許可されることがあります。これを「指定外履修」といいます。指定外履修を申請する場合には、指定外履修願を教養教育教務に提出し、許可を得なければなりません。詳細は、適切な時期に掲示します。

全学教育機構開講科目の概要

- 大学入門科目
- 外国語科目
 - ① 英語
 - ② ドイツ語
 - ③ フランス語
 - ④ 中国語
 - ⑤ 朝鮮語
 - ⑥ 日本語
- 健康・スポーツ科目
- 情報リテラシー科目
- 基本教養科目
 - ① 自然科学と技術の分野
 - ② 文化の分野
 - ③ 現代社会の分野
- インターフェース科目
 - ① 環境コース
 - ② 文化と共生コース
 - ③ 生活と科学コース
 - ④ 医療・福祉と社会コース
 - ⑤ 地域・佐賀学コース
- 共通専門基礎科目
- 留学支援英語教育カリキュラム

大学入門科目

(1) 大学入門科目を学ぶ意味

大学は、様々な専門分野の研究を通じて文化を創造し次世代に継承する活動を行っており、高校までとは異なる能動的な学習態度が必要となります。また、社会に出た後も、知識基盤社会において重要な役割を果たすためには、持続的に学習する必要がある、それらの基礎を培わなければなりません。大学入門科目は、このような大学生としての学習態度や志向性を身に付けるために学ぶことになります。また議論を通じて、共同して課題を解決することを学びます。

(2) 教育目的と教育目標

佐賀大学に入学した学生に、大学における学習への転換を促し、高校から大学への接続を円滑にし、本学の新入生として必要とされる知識やスキルを身に付けることを目的とします。更に、各学部の特性にに応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを目的とします。具体的な目標は、各クラス毎に異なります。

(3) 授業科目

大学入門科目は、大学入門科目Ⅰと大学入門科目Ⅱから成ります。(学部によっては、分けない場合もあります。)

(4) 教育方法

同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野毎の特性にに応じて、比較的少人数のクラスで授業を行います。講義だけでなく、討論や演習などを通じて、能動的な学習への転換を促します。

外国語科目 英 語

(1) 英語を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現在、英語は国際的な場面でのコミュニケーションの手段として最も広く使用されています。国境を越えて人やものの交流が進んでいる今日、英語によるコミュニケーション能力は、国際社会へのパスポートとして、ますます重視されています。2年間の英語学習を通じて、国際社会で活躍できるように、国際的な視野と英語コミュニケーション能力を育成します。

今日のように、最新の情報が英語で飛び交っている時代にあっては、どの専門分野であっても英語力が必要とされます。教養教育で培った英語力を土台にして、専門教育では、自らの専門分野に関して英語でコミュニケーションできるアカデミックな英語力を育成する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

＜教育目的＞

- (1) 中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指します。
- (2) 異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指します。

＜教育目標＞

- (1) 意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養います。
- (2) 多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養います。

これらの目標は、佐賀大学学士力1(3)の「言語リテラシー」の育成に対応すると同時に、学士力3(1)の「多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」の育成に対応しています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

教養教育の英語として、次の4つの授業科目が開設され、段階的に指導を行います。

- 「英語A」英語基礎（1年次前学期開講）
- 「英語B」異文化理解基礎（1年次後学期開講、医学部は1年次前学期開講）
- 「英語C」異文化理解発展（2年次前学期開講、医学部は1年次後学期開講）
- 「英語D」異文化理解応用（2年次後学期開講、医学部は1年次後学期開講）

さらに、将来、英語圏への海外留学を目指す学生に対しては、「留学支援英語教育カリキュラム」を開設しています。これは、選抜制による40名ほどのコースで、留学に必要な英語力や異文化理解能力が身に付くように、ネイティブスピーカー教員による授業を提供します。

(4) 教育方法

- (1) 「英語B」「英語C」「英語D」に関しては、習熟度別クラス編制により、学生の学力に合ったレベルの授業を提供します。ただし、医学部では習熟度別クラス編制は採用していません。
- (2) 教科書、補助教材、ICT機器などを効果的に用い、英語の4技能をバランスよく高めます。
- (3) 2年次後学期に実施されるTOEIC-IP（ただし、医学部の場合は1年次後学期に実施）によって、入学後の英語能力の進捗度及び到達度を測ります。
- (4) e-learningを使った教材、Graded Readersによる読書課題などを活用し、できるだけ多く英語に触れる機会を与えるために、授業外の課題も豊富に提供できるように準備されています。
- (5) TOEIC、TOEFL、実用英語検定などの外部資格試験の受験を奨励し、そのための支援プログラムを実施しています。

外国語科目 ドイツ語

(1) ドイツ語を学ぶ意味

ドイツ語は、ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタインの国語です。また、スイス、イタリア、ルクセンブルクなどでも公用語の一つとなっています。使用人口は日本語とほぼ同じで、およそ一億一千万人です。ドイツ文化は日本の近代化に大きな影響を与え、ドイツ語も日本の高等教育の中で伝統的に重要な位置を占めてきました。近年一部に、外国語はもはや英語のみでよいとする短絡的な風潮もありますが、1990年のドイツ再統一と東西冷戦の終焉・EU 発足を機会に、いろいろな分野でドイツ及びドイツ語の重要性が改めて認識されつつあります。

ドイツ語は、英語やオランダ語と同じようにゲルマン語に起源を持つ言葉です。英語がフランス語の影響を受けて、文法上の語形変化などが簡略化したのに対して、ドイツ語は昔のゲルマン語の文法体系を比較的忠実に残しています。英語とドイツ語は、単語ではその意味や用法がそっくりな場合もありますが、語形変化や語順などは現在ではかなり異なっており、皆さんは、この二つの言葉はむしろ別物であると考えた方がよいでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

ドイツ語を選択する皆さんは、これから1年ないし2年間ドイツ語を学ぶことになりますが、本学におけるドイツ語教育は、主に佐賀大学の学士力1の(3)の言語リテラシー及び3の(1)に対応しています。具体的に言えば、ドイツ語の基礎的な能力を身につけ、ドイツ語の学習を通してドイツ語圏の人々とその社会・文化に対する理解を深め、異文化への開かれた姿勢を身につけることをその到達目標とします。

(3) 開講する授業科目

1年間をみの履修学生に対しては前学期にドイツ語Ⅰa、後学期にドイツ語Ⅰb、2年間の学生にはこれに加えて、2年次に前学期ドイツ語Ⅱa、後学期にドイツ語Ⅱbを開講しています。

(4) 教育方法

1年次ではドイツ語の基本的な音声（発音）の規則、すなわちつづりと発音の関係を学び、初歩的な文法を学びます。その項目を具体的に言えば、動詞の現在人称変化、名詞の性と数、名詞・冠詞類・形容詞の格変化、助動詞、動詞の三基本形（不定形・過去・過去分詞形）、過去人称変化、完了形などで、それらを1年間にわたって学びます。このような基本的な文法を学びつつ、ドイツ語の基礎的な語彙と表現パターンを習得することによって、読む、聞く、話す、書く、の4技能の基礎力を養成します。また、ドイツ語が話されるドイツ語圏の社会的・文化的背景（ランデスクンデと言います）についても基本的な知識を得ます。

2年目にはさらに高度な文法事項、受動文、関係文、接続法などを学び、文法知識・語彙・表現パターンの拡大を図り、ある程度まとまった文章を読んだり、簡単な会話ができるようになることをめざします。つまり、読む・聞く・話す・書く、の4技能の基礎力の拡大を図り、ランデスクンデの深化を目標とします。

外国語科目 フランス語

(1) フランス語を学ぶ意味

現代の国際社会は、グローバルゼーションのもとで各国間の相互交流・依存が急速に進行していますが、その一方で互いの文化伝統や価値観の相違から時には誤解や摩擦が生じてきています。外国語を学ぶことは、自国とは異なる他者としての異文化を理解しようと望む開かれた謙虚な精神を培うことであり、大学において英語以外の外国語を学ぶことは、諸学問の基礎としての語学力を向上させる他に、社会人としてより柔軟な視野を形成することを目的にしています。第一次世界大戦まではフランス語がヨーロッパの公用語であったという事実が示しているように、フランスは長い間ヨーロッパの文化の中心的役割を果たしてきました。今日でもフランス語は英語に次いで第2位の公用語として、ヨーロッパ、カナダ、アフリカなど世界の30以上の国で用いられ、魅力ある文化を発信しています。フランス語を学ぶことは、広く世界へ眼を向ける一歩を新たに踏み出すことです。

(2) 教育目的と教育目標

本学におけるフランス語教育は、佐賀大学の学士力1の(3)の言語リテラシー、および3の(1)に対応し、フランス語の基礎的な学力を身につけ、フランスの文化や社会について基本的な知識を修得して、広い視野および国際感覚を育成することを目的としています。具体的な目標は、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる力を修得し、基礎的なコミュニケーション力を身につけることに置いています。

(3) 開講する授業科目

1年間のみの履修学生に対しては1年次に前学期Ⅰa、後学期Ⅰbの計2単位の授業科目を開講しています。2年間の履修学生に対しては、2年次に更に前学期Ⅱa、後学期Ⅱbを開講しています。また、実践的な会話力を身につけたい学生には、フランス人講師が担当するNクラスを開講しています。時間割の制約が無い限り、2年間Nクラスのみを受講することも可能です。

(4) 教育方法

初めて学ぶ外国語であるから、授業は対面方式で行われます。1年次においては基本的な発音の規則、日常生活に最も必要な基礎的な語彙や表現、初級文法等を修得します。2年次には、これに加えて、フランスの社会・文化やフランス人の日常生活に関する教材を通して、フランスという異文化理解のための基礎知識を身につけます。また、Nクラスでは、フランス人講師の下で会話力の養成に重点を置いたより実践的な教育が行われます。2年間を通して読む、書く、聴く、話すの4技能の基礎力を養成しますので、毎回の授業に積極的に参加することが求められます。

外国語科目 中国語

(1) 中国語学ぶ意味

日本語の基礎的な語彙は、もともとは中国古典語の語彙です。日本語の重要な語彙が、ほとんど漢字熟語で書かれていることを見れば、それはよくわかります。古代の日本人は、和語だけでは、高度な概念や複雑な思想は表現できませんでした。低い文明の段階にあった日本に、圧倒的に進んだ中国文明が流入してきたのだから当然ではあります。さらに近年の中国の経済発展にともなって、英語と中国語があればビジネス社会は事足りるとさえ言われ始めました。世界経済でも、それほどまでに中国語は重要になってきました。平和裏に日中の友好が持続することが両国の経済、世界の平和にとってきわめて重要です。よって日本人が中国語を学ぶ意義は大きいと言わざるを得ません。

(2) 教育目的と教育目標

日本の隣国であり、日本に最も影響を与えてきたのは中国です。言語を通じて、その中国人の発想の仕方や考え方や価値観を学び、国際社会に対する複眼的な視野と柔軟な認識力を育成することが、大局的な目的です。

簡単な会話ができ、平易な文章を読み書きできる力を修得することが目標です。特に総合的な意味でのコミュニケーションに必要な、最も基礎的かつ総合的な言語運用能力を身に付けることを目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

1年次に1年間だけ履修する学生（主に理工や医学部）には、前学期の中国語Ⅰaと後学期のⅠbをセットで開講しています。あわせて2単位となります。続けて2年次も履修する学生（主に経済や農学部）には、前学期の中国語Ⅱaと後学期のⅡbをセットで開講しています。1年次の中国語Ⅰabの2単位から合計して、2年間で4単位となります。

この他、中国語を学ぶためには、背景にある中国文化を理解することがきわめて有効です。むしろ両者は互いに依存する関係にあります。文化の根底からの知識に裏づけられながら、中国語を学ぶためには、関連する中国関係の科目を履修することが望ましいです。例えば主題科目の中国の文学、歴史、思想に関する科目などです。

(4) 教育方法

初めて学ぶ外国語であるから、教員の発音を物真似する対面方式の教育からスタートします。日本漢字とは微妙に異なる中国語独特の文字の書き方、ローマ字とは違った発音の表記方式を学びつつ、中国語の子音・母音から始まって、音節の発音の仕方、基礎的な語彙、基本的な文法、及びその運用の仕方などを修得して基礎学力を養成します。

外国語科目 朝鮮語

(1) 朝鮮語を学ぶ意味

九州北部と韓国南部は昔、互いに言葉が通じたと言われます。このように日本語と朝鮮語は、文法や語彙などが他の言語と比べても非常に似ており、同じ中国文化圏にある関係から漢字も同じものが多いです。しかも日本人と韓国人・朝鮮人は、人相風体も似ている者が少なくありません。ところが、日本と朝鮮半島では文化と社会に似て非なる部分が極めて多く、それが日本の植民地統治が成功しなかった理由とも言われます。朝鮮語を学ぶ意味は、韓国と日本が竹島問題や歴史認識で争い、また北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）とは国交もない現状から分かるとおり、異なる文化や多様な価値観を学び、彼らの思考様式や価値観を理解するところにあります。日本が米国と中国の間で埋もれつつある現在、朝鮮語の習得を通じて隣国の韓国と和解し、敵対している北朝鮮とも友好親善を進めて、北東アジアに平和を築く意義は大変おおいと言えます。

(2) 教育目的と教育目標

本学の朝鮮語教育は、佐賀大学の学士力1の(3)の言語リテラシー及び3の(1)に対応、朝鮮語の基礎的な学力を身につけ、南北朝鮮の文化や社会について基本的な知識を修得し、広い視野と国際感覚を育成することを目的とします。具体的な目標は、簡単な会話ができ、平易な文章を読み書きできる能力を修得し、基礎的なコミュニケーション力を身につけるとともに置いています。あわせて、朝鮮語の持つ社会的および歴史的な背景も教授します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

1年次に1年間だけ履修する学生（主に理工学部や医学部）には、前学期の朝鮮語Ⅰaと後学期の同Ⅰbを開講しており、合わせて2単位を修得します。続けて2年次も履修する学生（主に経済学部や農学部）には、前学期の朝鮮語Ⅱaと後学期の同Ⅱbを開講しています。1年次から合計すると、2年間で4単位を修得できることになります。朝鮮語では本学専任講師の授業を除き、全ての授業をネイティブ（母語会話者）の教員が担当します。このため、彼らから朝鮮語の生きた発音を学ぶ中、言葉が持つ文化や歴史を自然に修得できるように構成されています。

(4) 教育方法

1年次クラスでは、最初に共通して朝鮮語の文字（ハングル）と発音を学んだ後、平易な例文を用いながら基本的な文法と解釈を身に付けます。ある程度これらを修得する中で日常的な会話と作文を習得し、実際に両方の面で意思疎通できるように教育します。2年次では、1年次の修得内容の上で、より専門的な文法、会話、作文を教授します。一部の授業では、夏季休暇中に韓国への修学旅行を通じ、異文化を実体験しつつ国際感覚も養います。

外国語科目 日 本 語

(1) 日本語を学ぶ意味

大学生には幅広い日本語が必要とされます。日本人の友だちを作ったり、アルバイトを探したりするときに必要なコミュニケーション能力、問い合わせなどをするときの事務手続き処理能力、専門の授業についていける専門知識、レポートや発表などで自分の意見や考え方を他の人にわかるように論理的に発信していく日本語力など多岐にわたります。

これらの中でも特に自分の意見や考え方を論理的に発信していく能力は、多くの授業で課されるレポートや発表などに取り組むときに欠かせません。日本での就職活動の時や、社会人として働く時にも重要な能力です。

この能力を養うためには、レポートや発表をするときの基本的な形や言い方を身につけるだけでなく、クラスメートと議論する、他の人が書いた文を批評する、あるいは自分たちで調査するなどの活動を通して、批判的思考力を身につける必要があります。

佐賀大学に入学した多くの留学生は、大学生活に必要な能力を既に身につけていますが、日本語クラスに参加すると、より大学生らしい日本語を身につけられるでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

佐賀大学の日本語教育は、佐賀大学の学士力 1 の(3)の言語リテラシー、および 3 の(1)(2)に対応しています。発表スキルやレポート作成スキルの修得、ディスカッションを通じた批判的思考力の育成などを通して、大学生として学術的活動が十分に行える日本語力を養成します。さらに、1 年次修了後も、自律的に学習が継続できる力を養います。

(3) 開講する授業科目

1 年生の前学期に日本語Ⅰ、後学期に日本語Ⅱが開講されます。日本語Ⅰと日本語Ⅱは、それぞれ一学期に 2 コマ（2 単位）あります。また、日本語Ⅰと日本語Ⅱの授業開始時にプレースメントテストが行われ、学生は日本語能力に合わせて、abc のクラスに分かれます。

(4) 教育方法

技能別ではなく、一つのクラスで読む・書く・聞く・話すの 4 技能の向上をめざす総合的なクラスです。例えば、1) あるテーマに沿って読み、その内容についてディスカッションを行い、さらにその結果をレポートにまとめるや、2) あるテーマに沿って話し、その内容について調査を行い、さらにその結果を発表するなどの順序で授業が行われます。どの授業でも、学生は積極的に参加することが求められます。

健康・スポーツ科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代は高齢社会を迎え、健康長寿への志向が高まっています。反面、医療費の増加が懸念されるとともに、生活習慣病の低年齢化が危惧されています。最近の健康スポーツ科学の領域では運動やスポーツなどの身体活動の実践により、心身への健康効果があることが報告されています。

高校時代までの心身への発育発達のための運動スポーツの実践と異なり、大学における運動スポーツ実施の意味は、現在の心身の健康を維持するための実践に加え、加齢とともに低下する心身の能力をいかに予防し増加できるかの方法を学ぶ機会です。社会に出て体力の低下や健康の不安を感じた時に、運動処方できる能力を身につけることが大切です。

最近の大学生は、コミュニケーション能力が苦手であるといわれています。そのために友人ができない、ひきこもりあるいはトイレでの昼食などの現象が生じています。運動スポーツは、身体活動を通じたコミュニケーションづくりに効果があるといわれています。専門教育の勉学においても、まず健康であることが重要です。さらに、運動スポーツの実践による様々な知的体験は、各専門教育の中で相乗効果をもたらすものでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

健康・スポーツ科目は、心身の健康と生涯スポーツに関する実践的な能力の修得を目的とします。健康スポーツ科学講義により心身の健康に関する最新の知識を学ぶとともに、スポーツ実習では各種スポーツ・身体運動を行ない生涯スポーツとしての実践的能力を向上させます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

健康・スポーツ科目は、「健康スポーツ科学」と「スポーツ実習Ⅰ」及び「スポーツ実習Ⅱ」から構成されています。学科・課程により、履修すべき科目とクラスが指定されています。

(4) 当該分野の教育方法

「健康スポーツ科学」は、講義を中心として開講します。「スポーツ実習Ⅰ」と「スポーツ実習Ⅱ」は、スポーツ、身体運動・レクリエーションスポーツ・ニュースポーツなどを利用して行なわれる実習です。

情報リテラシー科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代は情報化社会とも呼ばれ、情報技術が生活の様々な面で活用されています。携帯電話やスマートフォンなどは、若者のほぼ全てが保有しています。その利用は、電話としてよりも、メール、情報検索、またはSNS（ソーシャルネットワークサービス）利用などのオンライン情報へのアクセスへと重点が移動しています。更に、オンラインショッピングやオンラインバンキングのような電子決済の利用が日常となり、映像や音楽、ニュースなどの配信も、テレビやラジオ、CDやDVDといった媒体からインターネットへと移動しています。このように、市民の多くが個人の携帯情報端末を保有し、様々なオンライン情報の利用が日常になっていく傾向にあります。

また、大学で学習し、研究をするためにも、情報技術の活用が不可欠です。履修登録や成績確認といった学期毎の作業だけでなく、予習復習や資料検索もオンラインで行われます。また、就職活動においても、会社情報の収集から面接や試験の申込まで、情報技術の活用が不可欠となっています。もちろん、文書作成、統計処理、プログラミングなど、初年次課程から専門課程までの全ての教育内容そのものが、情報技術の利用を前提としています。

このように、社会生活及び大学生活を快適・効率的に行うためには、情報技術を適切に利活用しなければなりません。そのために、確かな知識と技術を習得しておく必要があります。さらに、様々な情報システム、特に社会で提供されているオンラインサービスを利活用するためには、それらの利点と課題を知り、自ら選択できる基礎を持つ必要があります。

情報に関しては、高等学校で教科「情報」を履修してきました。しかし、情報技術は日々進歩し、その重要性は増大しています。情報技術の現状と課題について、新しい情報をより正確に学ぶ必要があります。また、ソフトウェアの利用方法についても、大学の学習での利用に適切な内容を、ある部分は再学習することで確かなものとし、ある部分は新たに習得する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものです。同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れています。「情報リテラシー」科目は、現代の社会で生きていく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学びます。また、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とします。

そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とします。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本態度の習得を行います。また、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

「情報リテラシー」科目は、「情報基礎概論」、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」から構成します。学科・課程により、履修すべき科目とクラスを指定します。

(4) 当該分野の教育方法

「情報リテラシー」科目のうち、「情報基礎概論」は講義を中心として開講します。また、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」は、コンピュータを使った演習を中心として開講します。

基本教養科目 自然科学と技術の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代社会において私たちは、自然科学の理解とその応用に基づく様々な恩恵を受けています。同時に、それらの未熟さに由来する環境・エネルギー問題など多くの解決しなければならない課題にも直面しています。世界中からの極めて多くの情報に溢れている現代社会においては、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を学び、その到達点と限界を正しく認識し、自ら科学的な根拠にもとづいて判断する力を身につけることが、主体的な判断に基づいて行動することができる市民社会の一員となるために必要不可欠なのです。基本教養自然科学と技術の分野では、科学・技術の基本的な概念や科学的思考方法、現代社会における科学・技術の役割と限界など、理学・工学・生命科学等の学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生の皆さんは、各授業科目を通して、自然を科学的な目で認識し、判断できる素養を身につけることで、各々の専門分野をより深く理解することができます。

(2) 教育目的と教育目標

自然科学、工学、生物・生命科学の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学学士力の「1 基礎的な知識と技能」を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけるために、自然科学と技術に関する基礎的知識を修得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

三つのサブ分野（区分）を設け、「基礎自然科学」区分では、「基礎／応用数理の世界」、「物理の世界Ⅰ、Ⅱ」、「化学の世界A、B」、「生物の世界」、「地学の世界」等の、「自然科学・技術の現代的諸相」区分では、「情報科学の世界Ⅰ、Ⅱ」、「機械工学の世界A、B」、「電気電子工学の世界A、B」、「環境科学Ⅱ」等の、「生物科学・生命科学」区分では、「生物科学の世界A～D」、「生命科学の基礎AからF」、「栄養と健康の科学」、「暮らしの中の生命科学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

受講者が、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を身につけることができるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また、主体的に学び判断する素養を身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、必要に応じて演習・実験・グループ学習などを導入する場合があります。

基本教養科目 文化の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代に生きる私たちも過去から続く固有の文化によって、その存在を規定されています。私たち一人ひとりを形作っているのは、共通の言語・思想・歴史・文学・芸術などなのです。異文化を知ることもまた、世界を認識し、自分自身を知ることへと繋がっていきます。そして自らを知り、自己を確立することが、大学での学習を終えて市民社会の一員として主体的に行動していくうえでの核となるのです。基本教養文化の分野では、日本と世界の文化について、各学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生諸君は各授業科目で得た基礎知識を携えて、文系学部・学科においては専門学習を積み上げていく礎石として、理数系学部・学科においては専門学習を支える豊かな人間的教養として、各々の専門分野の深い理解へと進んでいけるはずです。

(2) 教育目的と教育目標

言語・思想・歴史・文学・芸術等の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学士力の「1 基礎的な知識と技能」を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

三つの下位区分を設け、「文学と芸術」では、「日本文学」、「アジアの文化・文学」、「欧米の文化・文学」、「芸術論」等の、「言語と表現」では、「日本語学」、「言語学」、「応用言語学」、「コミュニケーション論」、「記号論」等の、「歴史と文化」では、「哲学・倫理学」、「東洋思想」、「考古学」、「日本史」、「東洋史」、「西洋史」、「人類学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、文化にかかわる諸学問分野の体系と特質を理解できるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

基本教養科目 現代社会の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代社会は極めて複雑化しており、我々の住んでいる国、社会や地域は多様です。私たちは過去に学びつつも、現代社会をより良いものとし、将来の世代にこの社会を引き継ぐ責任があります。そのためには、現代社会の複雑さや多様性を客観的に認識し、その問題性を学ぶ必要があります。このことは、何も文化系を専門とする学生に限らず、理科系の学生にとっても重要なことです。なぜなら、私たちは今ある社会を生活しているのであり、社会の構成員として、そのありようを決めうる立場にあるからです。誰か専門家だけの決定に社会の行く末を任せておくだけでは、より良い世の中とはならないことは、報道等によって知りうるように、現代社会が抱えている病理的な問題を見るだけでも明らかです。今、何がこの社会で起こっているのか、その原因はどこにあるのか、その問題に対してどのように対処すべきかを考えるにあたっては、社会をその考察対象とする社会科学の基礎的知識が不可欠であると考えられます。自分が専門とする分野に限らず、広く「社会」に関する基礎知識を学ぶことは、これから社会を動かす原動力となる学生諸君にとって必要であるとともに、社会によって維持されている大学で学ぶ者の責務であるとも言えるでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

「現代社会の分野」は、経済学、経営学、法律学、政治学、教育学、地理学、社会学等の基本的な知識を提供することによって、学生が、「現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につける」ことを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の諸相などを内容とする授業科目を開講しています。そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、問題や特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

現代社会の分野の授業科目群は、学生の学習の便宜のため、サブ分野として「基礎社会科学」「教育と人間」「現代社会の諸相」の3つで構成されています。「基礎社会科学」では現代社会に対する社会科学の基礎的な分析視角の提供を主たる講義内容とし、「教育と人間」では現代社会に生きる「人」のありようについての基礎的な分析視角の提供を主たる講義内容としています。また「現代社会の諸相」はより個別的なテーマを講義対象とし、現代社会の抱える問題に対する基礎知識の提供を主たる内容としています。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、現代社会にかかわる諸学問分野の体系・特質や現代社会が抱える個別の問題について理解できるように、入門的かつ基礎的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮を心がけます。授業は原則として講義形式で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

インターフェース科目 ①環境コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育と社会の関係

環境問題は、資源・エネルギー・廃棄物・汚染・生物多様性・地球温暖化等、総合的なテーマです。また、身近な地域（ローカル）な課題から地球的規模での課題まで多様性を有しています。これらの解決のためには、自然科学・人文社会科学を含めた学際的な知識の修得と、高い環境倫理意識や主体的な実践力も必要です。大学で学んだ基礎的知識や主体的な行動力・応用力は、卒業後においても一市民として地域社会において必要な責務です。

(2) 教育目的と教育目標

環境・資源・エネルギー等に関する現代的課題を理解し、環境に対する高い倫理観の醸成と、市民社会の一員として環境問題の解決に主体的に取り組むことのできる知識と応用力を養うことを目的とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

- ① **機械工学と環境**：世界的規模での課題となっているエネルギー・環境問題の背景と、その対策技術の最近の動向を学び、さらに熱エネルギー機械や海洋エネルギー利用技術などについて知ることを通じて、エネルギーと環境に対する理解を深めます。
科目：機械工学Ⅰ（エネルギーと環境問題）、機械工学と環境Ⅱ（設計・加工技術と環境）、機械工学Ⅲ（流れと環境）、機械工学と環境Ⅲ（材料と環境）、機械工学と環境Ⅳ（熱エネルギーと環境）、機械工学と環境Ⅳ（環境計測及び制御）
- ② **電気電子工学と環境**：エレクトロニクスや電気回路、電気電子機器、太陽電池などと、その歴史と現況について学び、エレクトロニクスや電気回路などのテクノロジーと人間の生活のかかわりについて理解を深めます。
科目：電気電子工学と環境Ⅰ、電気電子工学と環境Ⅱ、電気電子工学と環境Ⅲ、電気電子工学と環境Ⅳ
- ③ **有明海学**：有明海を総合的理解し、環境問題の解決に必要な自然的基礎、特に浅海干潟の特性を理解し、そこで培われてきた沿岸域住民の文化、及び環境負荷の少ないワイズ・ユース（賢明な利用）の在り方について考えます。
科目：有明海学Ⅰ（有明海学概論・有明解の自然と環境）、有明海学Ⅱ（浅海干潟環境学）、有明海学Ⅲ（干潟文化比較論）、有明海学Ⅳ（里海・干潟のワイズ・ユース）
- ④ **地域環境の保全と市民社会**：環境政策や市民による環境保全運動の理念・課題等に関する歴史と現状について学び、身近な廃棄物処理、里山・里地の環境保全活動について、市民とともにフィールドワーク実習や演習を通して体験的に学びます。
科目：地域環境の保全と市民社会Ⅰ（環境保全運動と市民）、地域環境の保全と市民社会Ⅱ（環境社会学）、地域環境の保全と市民社会Ⅲ（佐賀環境フォーラムⅢ）、地域環境の保全と市民社会Ⅳ（佐賀環境フォーラムⅣ）
- ⑤ **環境教育**：持続可能な社会を構築するために、環境教育の企画や推進、環境管理の実務、環境教育の指導者、さらには環境に関連する職業に従事することのできる知識と実践力・指導力を養成します。
科目：環境教育Ⅰ（環境原論）、環境教育Ⅱ（実習Ⅰ）、環境教育Ⅱ（実習Ⅱ）、環境教育Ⅲ（環境対話Ⅱ）、環境教育Ⅳ（インターンシップ）

(4) 当該分野の教育方法

講義及びフィールドワーク実習・演習・インターンシップを実施します。各プログラムにおける授業科目ⅠとⅡは2年次、ⅢとⅣは3・4年次に履修します。また、実習等は夏季休暇中等を活用した集中講義形式で実施する場合があります。

インターフェース科目 ②文化と共生コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育と社会の関係

本コースで学ぶ意味は、今の日本に求められている文化に関連する力、—1) 異文化を理解し、異文化からの人と交流や協働をする力、2) 性の違いにこだわらず異性とも交流し協働する柔軟性ある豊かな力、あるいは、ビジネスや学業において芸術的感性や芸術的創造を豊かに用いる力—を修得し、そして、それを用いて、自分の専門で修得した技術や知力を社会で効果的に活かせるようになることにある。

(2) 教育目的と教育目標

本コースの教育目標は、1) 異文化への高い理解力、異文化間コミュニケーション能力をもった人材、2) 社会を、女性も男性も差別なく、公正・平等にひとりひとりが理解され、活かされる社会にしようとする人材、3) 芸術的感性や芸術的創造を社会で豊かに用いることができる豊かな人材を育成することである。本コース「文化と共生」コースを通して、日本と最も密接な関わりを持つアジアの経済、法律、政治、社会、文化を知る、異なる文化の人々と一緒に交流・協働する、芸術を自己における文化の表現・創造ととらえて、芸術を創造する力を養う、あるいは、社会を男性と女性に公正・平等に開かれたものにするにはどうしたらいいかを考えることができます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

本コースは、6つのプログラムからなる。「アジアの理解」、「異文化交流」、「芸術創造」、「男女共同参画とジェンダー」、「Intercultural Communication」、「映像・デジタル表現」です。なお、「Intercultural Communication」と「映像・デジタル表現」は、大学1年生から履修を開始する特別プログラムです。これらのプログラムについては、特別プログラムの箇所を参照してください。

① アジアの理解

世界の中の日本、アジアの中の日本という視点を持ち、世界・アジアが抱える問題（日本がアジア諸国との間で戦いと友好とを繰り返してきた歴史的認識を含む）に対し、日本がどのようにその解決に関わるかを考え、加えて、個々の学生が、自分の専門と個人の特性を活かして、どのように貢献できるかを考えます。アジアの政治、経済、法律、民族、文化をより深く知り、アジア諸国の発展に、ともに参加する人材となります。

② 異文化交流

本プログラムの目標は、多様な文化からなる世界で異文化の人と交流し、互いを尊重し協働できる力のある若者を育成することです。このプログラムの履修者は、長期留学やグローバル化する社会で必要となる異文化協働体験をします。

③ 芸術創造

本プログラムは、音楽と美術・工芸の世界を概観し、更に五感をフルに使って実技体験をすることによって、世界の芸術や、日本の芸術についての基本的な知識を深めるとともに、芸術を通して自分を表現し、交流することを目標とします。

④ 男女共同参画とジェンダー

これからの男女共同参画社会の形成のためには、ジェンダーが社会に及ぼす影響を多角的に学ぶことが欠かせません。本プログラムは、あらゆる分野で、自己実現を可能にするために、ジェンダーに偏らない「自己概念」を形成し行動することができることを目標とします。

(4) 当該分野の教育方法

インターフェース科目の目標を達成するために、教室を中心としたディスカッション・グループワーク・実技に加えて、調査、学外研修、留学生との交流活動など主体的な学習を促すための教育方法によって教育がなされます。科目ⅠとⅡの間の履修順序については、どちらを先に履修しても構いません。また、ⅢとⅣについても、どちらを先に履修しても構いません。ⅢやⅣを履修するには、ⅠとⅡの両方を履修中か、あるいは、履修し終わっていない必要があります。

インターフェース科目 ③生活と科学コース

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間と科学技術との関係を見つめ直すことにより、科学を基盤とした社会の持続的発展を思考し、リスクに対応できる安全な社会・生活の構築を支えることができる人材を育成します。

(2) 教育目的と教育目標

現代の社会生活における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集して分析できる知識と技能について学びます。また、科学理論や科学技術を背景として、成熟した市民社会の形成の担い手となるための知識と姿勢を身に付けます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

7つのプログラムから1プログラムを選択します。プログラムは4科目で構成します。

① 現代社会における消費

現代の大量生産・流通・消費の構造の下に生じる消費者問題と消費者被害について、その発生機構を知り、消費者法を踏まえつつ、消費に対する批判的意識と深い知識を習得します。プログラムには、消費生活環境論と消費関連法律及び衣食住の科学が含まれます。

②アントレプレナーシップ

変革の時代にあって、起業家に限らず社会のあらゆる分野でアントレプレナーシップ（起業家精神）を持った人材、すなわち、積極的に新たな価値創造に挑戦するイノベーション人材が求められている。本プログラムでは、国際標準のデザイン思考手法の導入および社会連携により、自己と連携、地域と国際、創造力と行動力の調和を実践的に修得した、グローバル・リーダー人材の輩出を目指す。

③ リサーチ・リテラシー

統計が作成され、利用される過程で暗黙のうちに混入する政治性に惑わされず、社会的責任を考えるためのリテラシーを培うことを、本プログラムの主な目的とします。プログラムには、くらしの中の統計学、人文・教育・社会の統計学、経済・生物・環境の統計学が含まれます。

④ 食料と生活

人類の生存に関わる基本的な課題である食料問題を熟考し、食料のあり方についての展望を抱かせます。そのために、食料の獲得の歴史から、現在の食料生産ならびに、健康問題に通じる食品機能性までを体系的に学びます。プログラムには、農業、生物・生命科学のトピックが含まれています。

⑤ 未来を拓く材料の科学

人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を学び、新しい材料が新たに生み出す世界を考察します。プログラムには、有機機能性材料、無機機能性材料、生体機能材料に関する解説と実験が含まれています。なお、講義は教員が複数担当し、オムニバス形式でおこないます。

⑥ エレクトロニクスと生活

エレクトロニクス技術と情報処理技術等について学び、エレクトロニクスや関連する科学技術と人間の生活のかかわりについて理解を深めます。プログラムには、通信・電波・レーダーの解説や生体に関する情報処理などが含まれます。

⑦ 情報技術者キャリアデザイン

現代社会において、情報技術は、幅広い分野で必要不可欠となっています。本プログラムは、社会に貢献できる情報技術者として必要な知識やスキルの修得を目的とします。プログラムには、情報技術者として求められるプレゼンテーション技能、キャリアデザイン実践の解説の内容が含まれます。なお、講義は教員が複数担当し、オムニバス形式でおこないます。

(4) 当該分野の教育方法

各プログラムは順次性を持った4科目で構成し、社会・生活と科学に関する特定の分野を体系的に学ぶことができます。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生の主体的な学習活動を組み込みます。

インターフェース科目 ④医療・福祉と社会コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

医学・看護学の専門科目履修の準備段階として、また教員等を目指す学生を対象に、医学・看護学・教育・福祉と社会の関わりを考えます。

(2) 教育目的と教育目標

今日の社会に内在する環境や食の問題あるいは加速する少子高齢化社会や多様化・複雑化する子どもたちの現状を見据えて、支援と共生の社会を構築する担い手となる人材の育成

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

4 プログラムから1プログラムを選択します。各プログラムは4科目から構成されます。

① 子どもの発達支援（本庄鍋島同時開講）

現在の日本の教育の重点的課題とされる発達障害及び不登校の問題は、子ども支援、子育て支援というより広い視野から取り組みを進めることが求められています。そこで、発達障害、不登校、子育て支援に関する医学、福祉、心理、教育等の知見を学びます。＊認定が必要な人は、引き続き選択科目も受講します。

② 障がい者就労支援（本庄鍋島同時開講）

障がい者を有する人々の就労は、当事者の希望であると共に、共生社会構築を必要とする現代社会の要請でもあります。このプログラムは、障がい者を有する人々や社会に貢献できるのみならず、受講生自身の生涯にわたる人間的成長や自己実現にも寄与できます。欧米に比べて立ち遅れている障がい者就労支援の専門家養成を促進するとともに、社会的課題の解決への提案を行います。＊認定が必要な人は、引き続き選択科目も受講します。

③ 現代社会と医療（鍋島開講）

現代社会における包括的医療を構築していくための基礎的理解と社会を見据える力を養うことを目的として、現在の医療科学および体制を、先人が取り組んできた医療史とともに公害・薬害問題や人権の問題などを含めて歴史的に捉え、さらに環境物質等の現代生活に及ぼす影響や、医療人としてのキャリア形成に資する授業科目で構成します。

④ 食と健康（鍋島開講）

人類が生存していくために必須の食と健康の関わりに焦点を絞り、健康社会を構築していく上で必要な基礎的理解と食の在り方を考える力を養うことを目的として、食品科学、栄養学、薬、運動などの授業科目で構成します。現代の食の問題点を、科学的に評価できる力を養います。また、医療人としてのキャリア形成に資する授業科目を含みます。

(4) 当該分野の教育方法

このコースは、鍋島キャンパスで開講しますが、子どもの発達支援と障がい者就労支援は、本庄・鍋島同時遠隔開講ですので本庄キャンパスの学生も歓迎します。

医学部学生は、1年次から受講可能ですが、本庄キャンパスの学生は2年次から受講となります。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生に主体的な学習活動を促すための教育方法に基づく教育内容を組み込みます。

インターフェース科目 ⑤地域・佐賀学コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間はさまざまな形の社会の中で生活しています。その中でも地域は生活をするうえで重要な社会の一つです。本科目では地域を社会・文化・経済などのさまざまな面から取り上げ、具体的な地域の形について理解していきます。

(2) 教育目的と教育目標

具体的な事例をあげながら地域に現れる問題を検討し、地域を中心に思考することができる人材を育成します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

3 プログラムから1プログラムを選択します。各プログラムは4科目から構成されます。

① 佐賀の歴史文化

具体的な地域として最も身近な佐賀を対象に、どのような歴史を得てどういった特徴ある文化が形成されたのかを学びます。

② 地域経済と社会

さまざまな地域に現れる問題を、農業をはじめとするいくつかの産業を題材に検討し、労働問題・雇用問題としても検討します。さらに地域の自主的な存在を保証する地方自治の在り方も検討します。

③ 地域創生学

地域を支えるコミュニティの重要性や、どのようなコミュニティが望ましいのかを学びます。

(4) 当該分野の教育方法

一般の講義を中心にしますが、調査や調査報告を基にした演習形式での議論、レポートなどで地域に対する理解を深めます。

共通専門基礎科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

共通専門基礎科目は、様々な分野の専門教育に必要な、数学や物理などの基礎的な科目を対象として全学的に開講される科目です。

(2) 教育目的と教育目標

これらの科目においては、専門分野によらない共通の領域について学び、高校で学んだ数学や物理学の知識を再確認するとともに、それを発展させ、各専門分野で行われる専門教育科目の着手を円滑にすることが目的です。

数学の分野では、微分積分学や線形代数学の基礎的な考え方を理解し応用できる力を身につけること、物理の分野では、力学や電磁気学における自然の基本的な法則について、その考え方を理解し、応用できる力を身につけることを目標としています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

数学の分野では「線形代数学基礎Ⅰ」、「微分積分学基礎Ⅰ」、「微分積分学基礎Ⅱ」、「基礎数学」、物理学の分野では「基礎力学」、「基礎電磁気学」が開講予定です。いずれも、各学部、学科、コースにおける履修細則にしたがって、指定されている科目を受講することが必要です。

(4) 当該分野の教育方法

これらの科目は、いずれも講義を主体とした教育方法がとられます。

留学支援英語教育カリキュラム

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

国際化が進み、もの・人が活発に国境をこえている現代では、分野を問わず、国際的な知識と視野をもち、英語での情報の正確な受信と積極的な発信ができるコミュニケーション能力を兼ね備えたグローバルな人材が求められています。学問的に見ても、最新の情報は英語で飛び交っていて、どの専門分野に進もうとも、情報収集、さらには論文や学会等での発表には英語力は不可欠です。

本カリキュラムは、英語コミュニケーション能力を身につけ、海外の文化への理解を深め、さらに海外留学へと繋げるために教養課程のほとんどを英語で履修する特別支援プログラムです。

(2) 教育目的と教育目標

＜教育目的＞

国際的な知識と視野をもち、英語でしっかりと情報発信できるコミュニケーション能力を兼ね備えたグローバルな人材の育成を目的としています。

＜教育目標＞

入学時より、一定の英語力と海外への留学に意欲のある学生を選抜し、2年間で留学に必要な英語力を身につけることを目標にしています。具体的には英語留学試験 TOEFL で、このコース全員が500点以上の取得を目指します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

別表の通り、英語の4技能を高めるための8つの英語科目（医学部は4科目）、基本教養科目5科目（医学部は2科目）、それとインターフェース科目の4科目です。教養教育の単位の多くをこのコースから履修することになっています。

(4) 当該分野の教育方法

- このプログラムの参加希望者に対して選抜テストを行い、上位40名を選び、2年間英語による授業を提供します。
- 授業は全て英語のネイティブスピーカーが担当し、インタラクティブな授業により、英語の運用能力の向上を目指して、4技能をバランスよく鍛えます。
- 英語の言語学的な能力向上だけでなく、異文化理解や国際コミュニケーション能力の育成に必要な講義も、全て英語で行われます。
- Exposure to English（「英語にたくさん触れる」）を全ての授業で心がけ、実践的な対話、パワーポイント等による口頭発表、ディスカッションなどを取り入れた指導を行います。
- E-learning の英語教材、Graded-Readers を使った多読訓練などの授業外課題により、英語力増強を図ります。
- 定期的に TOEFL 試験を受けることで英語力を測り、弱点を補強することで、更なる向上を目指せるように学習支援をします。

「留学支援英語教育カリキュラム」

医学部以外

留学支援英語教育カリキュラムの授業科目及び単位数

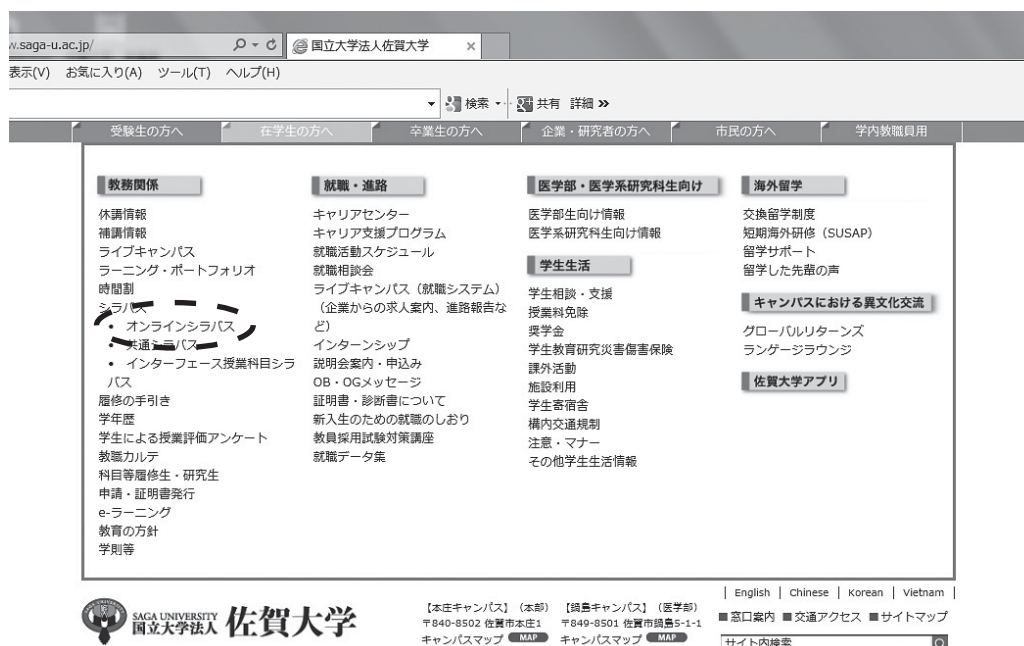
科目区分	対応する授業科目及び分野	授業科目	単位数	備考
共通基礎科目	英語 A	Intercultural English:Awakenings Integrated Speaking:Awakenings	1 1	・ 授業科目は対応する授業科目に読み替える。卒業に必要な英語の単位数は、英語 A、B、C、D それぞれ 1 単位の合計 4 単位
	英語 B	Intercultural English:Bridging Integrated Writing:Awakenings	1 1	
	英語 C	Integrated Writing:Bridging English Test Success:TOEFL I	1 1	
	英語 D	Integrated Speaking:Bridging English Test Success:TOEFL II	1 1	
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age The Natural World	2 2	各学部の規定に従い、基本教養科目の他の授業科目も履修する。
	文化の分野	Critical Thinking for the Modern Age Cultural Metaphors	2 2	
	現代社会の分野	Citizenship Education	2	
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2	
		Intercultural Communication II	2	
		Intercultural Communication III	2	
		Intercultural Communication IV	2	

医学部

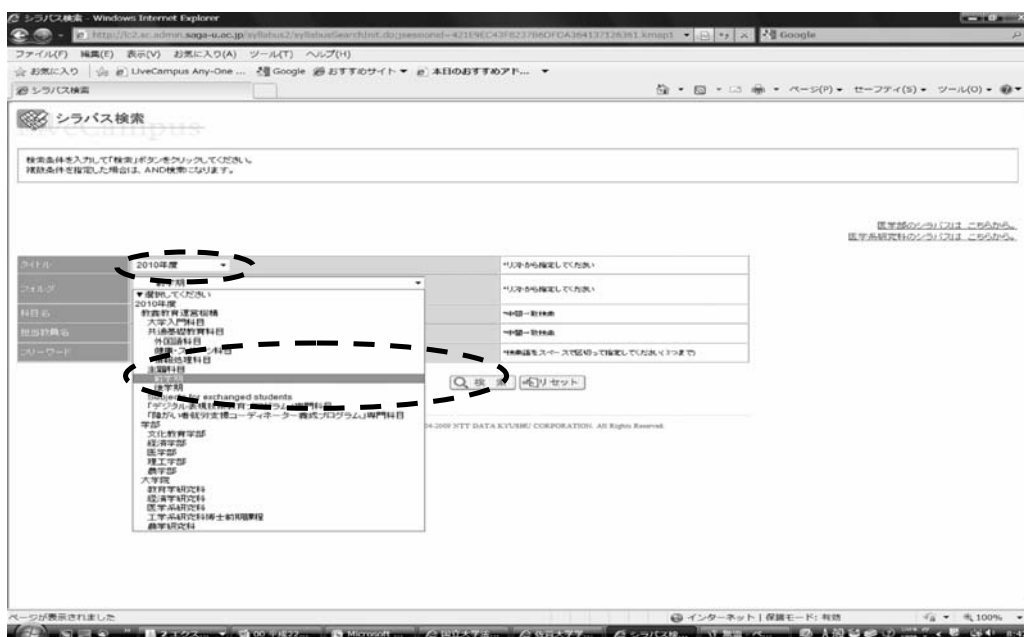
留学支援英語教育カリキュラム授業科目名及び単位数

科目区分	対応する授業科目及び分野	授業科目	単位数	備考
共通基礎科目	英語 A	Intercultural English: Awakenings	1	
	英語 B	Intercultural English: Bridging	1	
	英語 C	English Test Success: TOEFL I	1	
	英語 D	Integrated Speaking: Bridging	1	
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age	2	
	文化の分野	Cultural Metaphors	2	
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2	
		Intercultural Communication II	2	
		Intercultural Communication III	2	
		Intercultural Communication IV	2	

オンラインシラバス（授業概要）参照方法

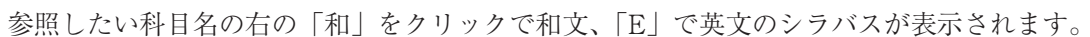


佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、左側の「オンラインシラバス」をクリックします。



オンライン
シラバス

シラバス検索画面が表示されますので、「タイトル」で2014年度を選び、フォルダのプルダウンボックスから、参照したい科目区分（例えば、基本教養科目＞前学期）にカーソルをあわせ、「検索」ボタンを押してください。（科目名や担当教員名を入れなくても、選択した科目区分のシラバス一覧が表示されます。）



平成26年度 開講科目一覧

履修登録を行う際は、この「履修の手引き」とともに、学期毎に発行する「授業時間割表」及び掲示板等を参照してください。

特に、共通基礎科目のクラス指定の方法は、授業科目毎に異なりますので、注意してください。主な例としては、次のようなものがあります。

入学手続き時の書類提出により事前申請した者を対象に、クラス指定

- ・ 英語N（ネイティブ）クラス（掲示により周知します。）

注）フランス語のネイティブクラスは、履修登録時に登録すれば受講できますので事前申請は不要です。

- ・ 留学支援英語教育カリキュラムクラス

学科・課程ごとに、履修曜日・校時を指定

- ・ 大学入門科目
- ・ 外国語科目（このうち英語は、さらに学籍番号によりクラス指定を行います。）
- ・ 情報リテラシー科目

1 回目の授業時に、クラス指定

- ・ 健康スポーツ科学

1 回目の授業で、クラスを編成します。そのため、他の科目とは異なり、クラス分けの後に指示された方法で履修登録手続きを行わなければなりません。

大学入門科目

(前学期)

授業科目	主担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年		
大学入門科目Ⅰ	川 上 泰 彦	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	網 谷 綾 香	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	久 野 建 夫	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	世 波 敏 嗣	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 1	2
大学入門科目Ⅰ	寺 井 直 樹	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 5	2
大学入門科目Ⅰ	角 緑 進	文化教育学部	学校教育課程	1 年	木 5	2
大学入門科目Ⅰ	高 野 茂	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 5	2
大学入門科目Ⅰ	山 崎 功	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅰ	相 澤 照 明	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅰ	後 藤 正 英	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅰ	都 築 彰	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅰ	谷 口 高 志	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅰ	赤 星 礼 子	文化教育学部	人間環境課程	1 年	木 3	2
大学入門科目Ⅰ	小 野 文 慈	文化教育学部	人間環境課程	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	坂 元 康 成	文化教育学部	人間環境課程	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅰ	田 中 右 紀	文化教育学部	美術・工芸課程	1 年	金 3	2
大学入門科目Ⅰ	中 村 博 和	経済学部	経済学科	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	品 川 優	経済学部	経済学科	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	戸 田 順一郎	経済学部	経済学科	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	富 田 義 典	経済学部	経済学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	納 富 一 郎	経済学部	経済学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	中 西 一	経済学部	経済学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	都 築 治 彦	経済学部	経済学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	山 下 壽 文	経済学部	経営学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	木戸田 力	経済学部	経営学科	1 年	金 2	2
大学入門科目Ⅰ	平 地 一 郎	経済学部	経営学科	1 年	金 2	2
大学入門科目Ⅰ	宮 崎 卓 朗	経済学部	経営学科	1 年	金 2	2
大学入門科目Ⅰ	松 尾 陽 好	経済学部	経営学科	1 年	金 2	2
大学入門科目Ⅰ	丸 谷 浩 介	経済学部	経済法学科	1 年	火 1	2
大学入門科目Ⅰ	井 上 亜 紀	経済学部	経済法学科	1 年	火 1	2
大学入門科目Ⅰ	畑 山 敏 夫	経済学部	経済法学科	1 年	水 3	2
大学入門科目Ⅰ	内 山 真由美	経済学部	経済法学科	1 年	金 2	2
大学入門科目Ⅰ	小 田 康 友	医学部	医学科	1 年	不定期	2
大学入門科目Ⅰ	長 家 智 子	医学部	看護学科	1 年	不定期	2
大学入門科目Ⅰ	市 川 尚 志	理工学部	数理科学科	1 年	月 2	2
大学入門科目Ⅰ	鄭 旭 光	理工学部	物理科学科	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅰ	奥 村 浩	理工学部	知能情報システム学科	1 年	月 1	2
大学入門科目Ⅰ	鯉 川 雅 之	理工学部	機能物質化学科	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅰ	武 富 紳 也	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 5	2
大学入門科目Ⅰ	古 川 達 也	理工学部	電気電子工学科	1 年	木 3	2
大学入門科目Ⅰ	小 島 昌 一	理工学部	都市工学科	1 年	金 1	2
大学入門科目Ⅰ	一 色 司 郎	農学部	応用生物科学科	1 年	月 5	2
大学入門科目Ⅰ	白 武 義 治	農学部	生物環境科学科	1 年	月 5	2
大学入門科目Ⅰ	宗 伸 明	農学部	生命機能科学科	1 年	月 5	2
大学入門科目Ⅱ	鯉 川 雅 之	理工学部	機能物質化学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	塩 見 憲 正	理工学部	機械システム工学科	1 年	木 3	2

通年科目

(後学期)

授業科目	主担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
大学入門科目Ⅰ	小 田 康 友	医学部	医学科	1 年	不定期	2
大学入門科目Ⅱ	山 崎 功	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅱ	相 澤 照 明	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅱ	後 藤 正 英	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅱ	都 築 彰	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 4	2
大学入門科目Ⅱ	谷 口 高 志	文化教育学部	国際文化課程	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	市 川 尚 志	理工学部	数理科学科	1 年	火 2	2
大学入門科目Ⅱ	青 木 一	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	高 橋 智	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	船久保 公 一	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	河 野 宏 明	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	米 山 博 志	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	橘 基	理工学部	物理科学科	1 年	金 5	2
大学入門科目Ⅱ	中 山 功 一	理工学部	知能情報システム学科	1 年	月 1	2
大学入門科目Ⅱ	伊 藤 秀 昭	理工学部	電気電子工学科	1 年	木 3～4	2
大学入門科目Ⅱ	帶 屋 洋 之	理工学部	都市工学科	1 年	金 1	2

通年科目

開講科目一覧

外国語科目

外国語科目（英語） 前学期（1年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
英語 A	廣 田 恵 美	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	江 口 京 子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	鈴 木 繁	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	山 崎 美穂子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	田 中 秀 文	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	郡 山 桂 子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	ダナ・アンゴープ	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 A	G. K. ジェンバー	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	白 水 浩 貴	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	青 木 ローラ	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	林 恵 子	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	服 部 八 重	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	江 口 誠	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	アラン・ボーマン	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 A	ジョナサン・モクスン	医学部	医学科	1 年	火 2	1
英語 A	小 池 知 英	医学部	医学科	1 年	金 2	1
英語 A	ジョナサン・モクスン	医学部	看護学科	1 年	火 1	1
英語 A	コールマン・サウス	医学部	看護学科	1 年	木 2	1
英語 A	松 尾 直 美	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	大 城 綾 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	山 中 利 夫	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	岡 有 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	小 池 知 英	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	テレンス・フェルナー	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 A	江 口 誠	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	青 木 ローラ	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	林 恵 子	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	服 部 八 重	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	石 田 由 希	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	白 水 浩 貴	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	G. K. ジェンバー	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	マイヤホフ	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	アラン・ボーマン	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 A	藤 瀬 信 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 A	岩 崎 一 恵	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 A	進 藤 範 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 A	渡 邊 晶 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 A	マイヤホフ	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 B	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1 年	火 2	1
英語 B	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1 年	金 2	1
英語 B	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1 年	火 1	1
英語 B	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1 年	木 2	1

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	曜日・校時	単位数
Intercultural English:Awakenings	ダナ・アンゴープ	医学部以外	1 年	水 4 水 5	1
		医学部	1 年	火 2	1
Integrated Speaking:Awakenings	アラン・ボーマン	医学部以外	1 年	水 4 水 5	1
Intercultural English:Bridging	テレンス・フェルナー	医学部	1 年	金 2	1

後学期（1 年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
英語 B	廣 田 恵 美	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	江 口 京 子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	山 崎 美穂子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	田 中 秀 文	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	郡 山 桂 子	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	ダナ・アンゴープ	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	アラン・ボーマン	文化教育学部	共通	1 年	月 3	1
英語 B	白 水 浩 貴	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	山 中 利 夫	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	服 部 八 重	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	青 木 ローラ	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	林 恵 子	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	江 口 誠	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	マイヤホフ	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	アラン・ボーマン	経済学部	共通	1 年	金 1	1
英語 B	松 尾 直 美	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	大 城 綾 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	小 池 知 英	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	名 本 達 也	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	岡 有 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	テレンス・フェルナー	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	ダナ・アンゴープ	理工学部	数理、物理、知能、機能	1 年	火 3	1
英語 B	青 木 ローラ	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	林 恵 子	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	服 部 八 重	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	石 田 由 希	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	白 水 浩 貴	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	G. K. ジェンバー	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	マイヤホフ	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	アラン・ボーマン	理工学部	機械、電気、都市	1 年	金 2	1
英語 B	藤 瀬 信 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 B	岩 崎 一 恵	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 B	進 藤 範 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 B	渡 邊 晶 子	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 B	新任教員（ネイティブ）	農学部	共通	1 年	木 4	1
英語 C	小 池 知 英	医学部	医学科	1 年	火 2	1
英語 C	小 池 知 英	医学部	医学科	1 年	金 2	1
英語 C	小 池 知 英	医学部	看護学科	1 年	火 1	1
英語 C	岡 有 子	医学部	看護学科	1 年	木 2	1
英語 D	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1 年	火 2	1
英語 D	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1 年	金 2	1
英語 D	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1 年	火 1	1
英語 D	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1 年	木 2	1

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	曜日・校時	単位数
Intercultural English: Bridging	マイヤホフ	医学部以外	1 年	水 4 水 5	1
Integrated Writing: Awakenings	アラン・ボーマン	医学部以外	1 年	水 4 水 5	1
English Test Success TOEFL I	新任教員	医学部	1 年	火 2	1
Integrated Speaking: Bridging	テレンス・フェルナー	医学部	1 年	金 2	1

外国語科目（ドイツ語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
ドイツ語Ⅰa	尾 張 充 典	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
ドイツ語Ⅰa	吉 中 幸 平	経済学部	経済学科	1年	月3	1
ドイツ語Ⅰa	森 岡 章 夫	経済学部	経営、経済法学科	1年	月3	1
ドイツ語Ⅰa	吉 中 幸 平	医学部	医学科	1年	水3	1
ドイツ語Ⅰa	吉 中 幸 平	医学部	看護学科	1年	水4	1
ドイツ語Ⅰa	森 岡 章 夫	理工学部	数理、物理	1年	金2	1
ドイツ語Ⅰa	村 上 浩 明	理工学部	知能情報システム学科	1年	金2	1
ドイツ語Ⅰa	尾 張 充 典	理工学部	機械システム工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰa	下 蘭 り さ	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰa	村 上 浩 明	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰa	森 岡 章 夫	理工学部	都市工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰa	重 竹 芳 江	農学部	共通	1年	木3	1
ドイツ語Ⅰa	木 田 綾 子	農学部	共通	1年	木3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
ドイツ語Ⅰb	尾 張 充 典	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
ドイツ語Ⅰb	吉 中 幸 平	経済学部	経済学科	1年	月3	1
ドイツ語Ⅰb	森 岡 章 夫	経済学部	経営、経済法学科	1年	月3	1
ドイツ語Ⅰb	吉 中 幸 平	医学部	医学科	1年	水3	1
ドイツ語Ⅰb	吉 中 幸 平	医学部	看護学科	1年	水4	1
ドイツ語Ⅰb	森 岡 章 夫	理工学部	数理、物理	1年	金2	1
ドイツ語Ⅰb	村 上 浩 明	理工学部	知能情報システム学科	1年	金2	1
ドイツ語Ⅰb	尾 張 充 典	理工学部	機械システム工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰb	下 蘭 り さ	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰb	村 上 浩 明	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰb	森 岡 章 夫	理工学部	都市工学科	1年	金3	1
ドイツ語Ⅰb	重 竹 芳 江	農学部	共通	1年	木3	1
ドイツ語Ⅰb	木 田 綾 子	農学部	共通	1年	木3	1

外国語科目（フランス語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
フランス語Ⅰa	河 野 敦 子	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
フランス語Ⅰa	前 川 完	経済学部	経済学科	1年	月2	1
フランス語Ⅰa	前 川 完	経済学部	経営、経済法学科	1年	月4	1
フランス語Ⅰa	島 村 雅 子	医学部	医学科	1年	水3	1
フランス語Ⅰa	島 村 雅 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
フランス語Ⅰa	河 野 敦 子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
フランス語Ⅰa	島 村 雅 子	理工学部	機械システム工学科	1年	金4	1
フランス語Ⅰa	島 村 雅 子	理工学部	電気電子、都市	1年	金3	1
フランス語Ⅰa	ジャン ボティエ	農学部	共通	1年	木3	1
フランス語Ⅰa	リシユー シリル	全学部(農を除く)		1年	月3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
フランス語Ⅰb	河 野 敦 子	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
フランス語Ⅰb	前 川 完	経済学部	経済学科	1年	月2	1
フランス語Ⅰb	前 川 完	経済学部	経営、経済法学科	1年	月4	1
フランス語Ⅰb	島 村 雅 子	医学部	医学科	1年	水3	1
フランス語Ⅰb	島 村 雅 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
フランス語Ⅰb	河 野 敦 子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
フランス語Ⅰb	島 村 雅 子	理工学部	機械システム工学科	1年	金4	1
フランス語Ⅰb	島 村 雅 子	理工学部	電気電子、都市	1年	金3	1
フランス語Ⅰb	ジャン ボティエ	農学部	共通	1年	木3	1
フランス語Ⅰb	リシユー シリル	全学部(農を除く)		1年	月3	1

外国語科目（中国語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
中国語Ⅰa	谷 口 高 志	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
中国語Ⅰa	古 川 末 喜	経済学部		1年	月2	1
中国語Ⅰa	荀 暁 崢	経済学部		1年	月3	1
中国語Ⅰa	野 田 雄 史	経済学部		1年	月3	1
中国語Ⅰa	張 本 秀 子	経済学部		1年	月4	1
中国語Ⅰa	胡 山 林	経済学部		1年	月4	1
中国語Ⅰa	胡 山 林	医学部	医学科	1年	水3	1
中国語Ⅰa	張 本 秀 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
中国語Ⅰa	張 路	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
中国語Ⅰa	張 本 秀 子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
中国語Ⅰa	張 本 秀 子	理工学部	機械システム工学科	1年	金4	1
中国語Ⅰa	張 路	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰa	荀 暁 崢	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰa	野 田 雄 史	理工学部	都市工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰa	周 龍 梅	農学部	生物環境科学科	1年	木3	1
中国語Ⅰa	張 路	農学部	応用生物、生命機能	1年	木3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
中国語Ⅰb	谷 口 高 志	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
中国語Ⅰb	古 川 末 喜	経済学部		1年	月2	1
中国語Ⅰb	荀 暁 崢	経済学部		1年	月3	1
中国語Ⅰb	野 田 雄 史	経済学部		1年	月3	1
中国語Ⅰb	張 本 秀 子	経済学部		1年	月4	1
中国語Ⅰb	胡 山 林	経済学部		1年	月4	1
中国語Ⅰb	胡 山 林	医学部	医学科	1年	水3	1
中国語Ⅰb	張 本 秀 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
中国語Ⅰb	張 路	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
中国語Ⅰb	張 本 秀 子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	金2	1
中国語Ⅰb	張 本 秀 子	理工学部	機械システム工学科	1年	金4	1
中国語Ⅰb	張 路	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰb	荀 暁 崢	理工学部	電気電子工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰb	野 田 雄 史	理工学部	都市工学科	1年	金3	1
中国語Ⅰb	周 龍 梅	農学部	生物環境科学科	1年	木3	1
中国語Ⅰb	張 路	農学部	応用生物、生命機能	1年	木3	1

外国語科目（朝鮮語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
朝鮮語Ⅰa	李 知 映	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
朝鮮語Ⅰa	朴 明 美	経済学部		1年	月3	1
朝鮮語Ⅰa	金 京 姫	経済学部		1年	月4	1
朝鮮語Ⅰa	金 光 子	医学部	医学科	1年	水3	1
朝鮮語Ⅰa	金 光 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
朝鮮語Ⅰa	李 知 映	理工学部	数理・物理・知能情報	1年	金3	1
朝鮮語Ⅰa	森 善 宣	理工学部	機械システム・電気電子・都市工学	1年	金3	1
朝鮮語Ⅰa	金 珽 実	農学部		1年	木3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
朝鮮語Ⅰb	李 知 映	文化教育学部	人間環境、美術・工芸課程	1年	金4	1
朝鮮語Ⅰb	朴 明 美	経済学部		1年	月3	1
朝鮮語Ⅰb	金 京 姫	経済学部		1年	月4	1
朝鮮語Ⅰb	金 光 子	医学部	医学科	1年	水3	1
朝鮮語Ⅰb	金 光 子	医学部	看護学科	1年	水4	1
朝鮮語Ⅰb	李 知 映	理工学部	数理・物理・知能情報	1年	金3	1
朝鮮語Ⅰb	森 善 宣	理工学部	機械システム・電気電子・都市工学	1年	金3	1
朝鮮語Ⅰb	金 珽 実	農学部		1年	木3	1

日本語（外国人留学生対象）

前学期

授業科目	担当教員	学 部	対象学年	曜日・校時	単位数
日本語Ⅰ	満 生 洋 子	全学部	1 年	水 3 金 3	2
	中 山 亜紀子				
	木 村 ゆり子				

後学期

授業科目	担当教員	学 部	対象学年	曜日・校時	単位数
日本語Ⅱ	満 生 洋 子	全学部	1 年	水 3 金 3	2
	布 尾 勝一郎				
	木 村 ゆり子				

健康・スポーツ科目

健康スポーツ科学（講義）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	区 分	対象年次		
健康スポーツ科学	佐 藤 武	文化教育学部	全て		1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	龍 頭 信 二				1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	久 富 守				1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	山 津 幸 司	理工学部	数理科学科 物理科学科 知能情報システム学科 電気電子工学科 都市工学科		1 年	月 3	2
健康スポーツ科学	町 田 正 直				1 年	月 3	2
健康スポーツ科学	久 富 守				1 年	月 3	2
健康スポーツ科学	坂 井 充				1 年	月 3	2

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	区 分	対象年次		
健康スポーツ科学	池 上 寿 伸	経済学部	全て		1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	龍 頭 信 二				1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	久 富 守				1 年	月 1	2
健康スポーツ科学	木 道 圭 子	農学部	全て		1 年	月 3	2
健康スポーツ科学	佐 藤 広 徳				1 年	月 3	2

健康スポーツ実習

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	区 分	対象年次		
スポーツ実習Ⅰ	龍 頭 信 二	文化教育学部	全て	学籍番号が偶数	1 年	月 2	1
	八 嶋 文 雄						
	坂 井 充 守			学籍番号が奇数	1 年	月 2	1
スポーツ実習Ⅱ	久 富 守						
	町 田 正 直						
	中 山 正 教						
スポーツ実習Ⅰ	堤 公 一	経済学部	全て	学籍番号が偶数	1 年	木 4	1
	久 富 守						
	右 田 孝 志			学籍番号が奇数	1 年	木 4	1
スポーツ実習Ⅱ	田 口 晴 康						
	佐 藤 広 徳						
	坂 元 康 成						
スポーツ実習Ⅰ	東 和 樹	理工学部	数理科学科 物理科学科 機械システム工学科 電気電子工学科	学籍番号が偶数	1 年	火 1	1
	井 上 伸 一						
	池 田 孝 博			学籍番号が奇数	1 年	火 1	1
スポーツ実習Ⅱ	佐 藤 広 徳						
	町 田 正 直						
	近 藤 芳 昭						
スポーツ実習Ⅰ	町 田 正 直	理工学部	知能情報システム学科 機能物質化学科 都市工学科	学籍番号が偶数	1 年	木 3	1
	久 富 守						
	右 田 孝 志			学籍番号が奇数	1 年	木 3	1
スポーツ実習Ⅱ	田 口 晴 康						
	佐 藤 広 徳						
	江 崎 利 昭						
スポーツ実習Ⅰ	東 和 樹	農学部	全て	学籍番号が偶数	1 年	火 2	1
	久 富 守						
	池 田 孝 博			学籍番号が奇数	1 年	火 2	1
スポーツ実習Ⅱ	佐 藤 広 徳						
	町 田 正 直						
	近 藤 芳 昭						

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	区 分	対象年次		
スポーツ実習Ⅰ	龍 頭 信 二	文化教育学部	全て	学籍番号が奇数	1 年	月 2	1
	八 嶋 文 雄						
	佐 藤 広 徳			学籍番号が偶数	1 年	月 2	1
スポーツ実習Ⅱ	久 富 守						
	栗 原 淳	経済学部	全て	学籍番号が奇数	1 年	木 4	1
	中 山 正 教						
スポーツ実習Ⅰ	池 上 寿 伸			学籍番号が偶数	1 年	木 4	1
	久 富 守						
	右 田 孝 志	理工学部	数理科学科 物理科学科 機械システム工学科 電気電子工学科	学籍番号が奇数	1 年	火 1	1
スポーツ実習Ⅱ	田 口 晴 康						
	佐 藤 広 徳			学籍番号が偶数	1 年	火 1	1
	坂 元 康 成						
スポーツ実習Ⅰ	東 和 樹	理工学部	知能情報システム学科 機能物質化学科 都市工学科	学籍番号が奇数	1 年	木 3	1
	松 山 郁 夫						
	池 田 孝 博			学籍番号が偶数	1 年	木 3	1
スポーツ実習Ⅱ	佐 藤 広 徳						
	町 田 正 直	農学部	全て	学籍番号が奇数	1 年	火 2	1
	近 藤 芳 昭						
スポーツ実習Ⅰ	町 田 正 直			学籍番号が偶数	1 年	火 2	1
	久 富 守						
	右 田 孝 志	農学部	全て	学籍番号が奇数	1 年	火 2	1
スポーツ実習Ⅱ	田 口 晴 康						
	佐 藤 広 徳			学籍番号が偶数	1 年	火 2	1
	江 崎 利 昭						
スポーツ実習Ⅰ	東 和 樹	農学部	全て	学籍番号が奇数	1 年	火 2	1
	久 富 守						
	池 田 孝 博			学籍番号が偶数	1 年	火 2	1
スポーツ実習Ⅱ	佐 藤 広 徳						
	町 田 正 直			学籍番号が奇数	1 年	火 2	1
	近 藤 芳 昭						

情報リテラシー科目

情報リテラシー科目（情報基礎概論）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎概論	角 和 博	文化教育学部	学校教育課程	1 年	火 3	2
情報基礎概論	小 野 文 慈	文化教育学部	国際文化、美術・工芸	1 年	火 3	2
情報基礎概論	岡 島 俊 哉	文化教育学部	人間環境課程	1 年	火 3	2
情報基礎概論	羽 石 寛 志	経済学部	経済学科	1 年	金 2	2
情報基礎概論	安 田 伸 一	経済学部	経営学科	1 年	金 3	2
情報基礎概論	江 藤 博 文	経済学部	経済法学科	1 年	火 2	2
情報基礎概論	竹 生 政 資	医学部	医学科	1 年	木 2	2
情報基礎概論	竹 生 政 資	医学部	看護学科	1 年	金 3	2
情報基礎概論	山 下 義 行	理工学部	知能情報システム学科	1 年	火 4	2
情報基礎概論	堂 蘭 浩	理工学部	電気電子工学科	1 年	月 2	2
情報基礎概論	柴 錦 春 帯 屋 洋 之	理工学部	都市工学科	1 年	月 4	2
情報基礎概論	北 垣 浩 志	農学部	全学科	1 年	金 2	2

情報リテラシー科目（情報基礎演習Ⅰ）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅰ	大 元 誠	文化教育学部	学校教育課程	1 年	木 3	1
情報基礎演習Ⅰ	中 村 隆 敏	文化教育学部	学校教育課程	1 年	木 3	1
情報基礎演習Ⅰ	山 下 宗 利	文化教育学部	美術・工芸課程	1 年	木 3	1
情報基礎演習Ⅰ	瀧 川 真 也	文化教育学部	国際文化課程	1 年	月 5	1
情報基礎演習Ⅰ	竹 生 政 資	医学部	医学科	1 年	月 1	1
情報基礎演習Ⅰ	松 前 進	理工学部	知能情報システム学科	1 年	金 1	1
情報基礎演習Ⅰ	滝 澤 登	理工学部	機能物質化学科	1 年	月 2	1
情報基礎演習Ⅰ	佐 藤 和 也	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅰ	宮 良 明 男	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅰ	後 藤 聡	理工学部	電気電子工学科	1 年	月 4	1
情報基礎演習Ⅰ	和 田 康 彦	農学部	応用生物、生命機能	1 年	金 4	1
情報基礎演習Ⅰ	稲 葉 繁 樹	農学部	生物環境科学科	1 年	金 5	1

〈再〉

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅰ	岡 島 俊 哉	文化教育学部	人間環境課程	1 年	月 1	1
情報基礎演習Ⅰ	大 串 浩一郎	理工学部	都市工学科	2 年	金 4	1
情報基礎演習Ⅰ	中大窪 千 晶			2 年	月 4	1

情報リテラシー科目（情報基礎演習Ⅱ）

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅱ	高 椋 利 幸	理工学部	機能物質化学科	1 年	月 2	1
情報基礎演習Ⅱ	佐 藤 和 也	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅱ	宮 良 明 男			1 年	火 4	1

基本教養科目

[自然科学と技術の分野]

サブ分野	授業科目	副 題	単位数	平成26年度		主担当教員等	
				前学期	後学期	氏 名	所属部局
基礎自然科学	基礎数理の世界		2	○		梶木屋 龍 治	工学系
	応用数理の世界		2	○		半 田 賢 司	工学系
	物理の世界Ⅰ		2	○	○	遠 藤 隆	工学系
	物理の世界Ⅱ		2	○	○	遠 藤 隆	工学系
	化学の世界A		2		○	北 村 ・ 中 島	工学系
	化学の世界B		2	○		滝 澤 ・ 長 田	工学系
	実験化学Ⅰ		2	○		鯉 川 雅 之 他	工学系
	実験化学Ⅱ		2		○	兒 玉 浩 明 他	工学系
	生物学の世界	植物観察の基礎	2		○	宮 脇 博 巳	文教
	生物学の世界	生物学入門	2	○		福 留 健 司	全学
	生物学の世界	基礎生物学	2	○		福 留 健 司	全学
	地学の世界		2		○	角 緑	文教
自然科学・技術の現代的諸相	Breakthroughs in the Modern Age		2	○		マ イ ヤ ホ フ	全学
	Breakthroughs in the Modern Age		2	○鍋		サ ウ ス	非常勤
	The Natural World		2	○		ボ ー マ ン	全学
	情報科学の世界Ⅰ	情報のしくみ	2	○		山 下 義 行	工学系
	情報科学の世界Ⅰ	情報のしくみ	2	○		堀 良 彰	全学
	情報科学の世界Ⅱ	社会の中の情報科学	2	○		堀 良 彰	全学
	機械工学の世界A		2		○	服 部 ・ 萩 原	工学系
	機械工学の世界B		2	○		木 上 ・ 塩 見	工学系
	電気電子工学の世界A		2	○		木 本 晃	工学系
	電気電子工学の世界B		2		○	深 井 澄 夫	工学系
	都市と生活	住環境の科学	2	○		小 島 昌 一	工学系
	環境科学Ⅱ		2		○	郡 山 ・ 岡 島	全学・文教
	環境保全論Ⅱ		2		○	兒 玉 ・ 上 野	分析・農
	資源循環論Ⅰ		2	○		染 谷 孝 他	農・文
	資源循環論Ⅱ		2		○	染 谷 孝 他	農・文
	地域の環境・森・川・海を繋ぐ環境と暮らし		2	○	○	兒 玉 ・ 宮 島	分析・工
	わかりやすい機構学		2	○	○	穂屋下 茂	全学
	セラミックスの不思議		2		○	渡 孝 則	工学系
	21世紀のエネルギーと環境問題		2	○		池 上 康 之	海エネ
生物科学・生命科学	生物科学の世界B	ゲノムから生命を知る	2	○		永 野 幸 生	分析
	生物科学の世界C	生物の生態と社会：動物生態学	2		○	野間口 眞太郎	農
	生物科学の世界D	疫学入門	2		○	久 野 建 夫	文教
	栄養と健康の科学		2		○	岡 島 ・ 萱 島	文教
	くらしの中の生命科学		2		○	和 田 康 彦	農
	生命科学の基礎A	からだのしくみ	2		○鍋	河 野 史	医
	生命科学の基礎A	病気の科学	2		○	福 留 健 司	全学
	生命科学の基礎B	実験動物学	2	○鍋		北 嶋 修 司	分析
	生命科学の基礎C	医学研究の勧め	2		○鍋	市 場 正 良	医
	生命科学の基礎E	ライフサイエンスの物理	2		○鍋	富 永 広 貴	医
	生命科学の基礎F	生体分子と酵素	2	○鍋		鄭 文 玉 他	医

[文化の分野]

サブ分野	授業科目	副 題	単位数	平成26年度		主担当教員等	
				前学期	後学期	氏 名	所属部局
文学と芸術	日本文学	古典	2		○	日 高 愛 子	文教
	アジアの文化・文学	中国：漢詩を読む	2	○		古 川 末 喜	文教
	アジアの文化・文学	韓国	2	○		永 島 広 紀	文教
	欧米の文化・文学		2	○		江 口 誠	文教
	欧米の文化・文学		2	○鍋		高 野 吾 朗	医
	芸術論	美術	2		○	吉 住 ・ 栗 山	文教
	芸術論	有田焼入門	2	○	○	中村・田中・穂屋下	文教・全学
	芸術論	音楽	2	○		高 野 茂	文教
	芸術論	美学	2		○	相 澤 照 明	文教
	画像へのアプローチ		2	○		大 塚 清 吾	非常勤
	伝統工芸と匠		2		○	大 塚 清 吾	非常勤
	映像制作入門		2	○	○	角 ・ 穂 屋 下	文教・全学
	シルクロード入門		2	○	○	穂屋下 茂	全学
言語と表現	日本語学	外国語としての日本語	2	○		丹 羽 順 子	全学
	言語学	統語論	2		○	古 賀 弘 毅	全学
	言語学	社会言語学	2		○	布 尾 勝 一 郎	全学
	応用言語学	外国語教授法	2	○		吉 川 達	全学
	応用言語学	第二言語習得	2		○	中 山 亜 紀 子	全学
	コミュニケーション論	人間社会とコミュニケーション	2	○	○	早 瀬 博 範	文教
	記号論	記号情報論	2		○	木戸田 力	経済
	Critical Thinking for the Modern Age		2		○	フ ェ ル ナ ー	全学
	Cultural Metaphors				○	ア ン ゴ ー ヴ	全学
	Cultural Metaphors				○鍋	サ ウ ス	非常勤
	デジタル表現技法		2		○	西 村 雄 一 郎	非常勤
	教育デジタル表現		2		○	穂屋下・藤井	全学
	プロデューサ原論		2	○		穂屋下・藤井	全学
	映画製作		2	○		西 村 雄 一 郎	非常勤
歴史と文化	哲学・倫理学		2		○	後 藤 正 英	文教
	東洋思想		2	○		近 藤 則 之	文教
	考古学	吉野ヶ里学	2		○	重 藤 ・ 穂 屋 下	文教・全学
	日本史		2	○	○	宮 武 正 登	全学
	日本史		2	○鍋		宮 武 正 登	全学
	日本史	近現代史	2		○	鬼 嶋 淳	文教
	日本史	佐賀の歴史	2		○	伊 藤 昭 弘	地域学
	西洋史		2	○	○	都 築 彰	文教
	人類学		2	○鍋		菊池・川久保	医
	特別講義	Immersion Program in America	2	○		早 瀬 ・ 江 口	文教・全学

[現代社会の分野]

サブ分野	授業科目	副 題	単位数	平成26年度		主担当教員等	
				前学期	後学期	氏 名	所属部局
基礎社会科学							
	経済学		2		○	上 山 和 俊	経済
	経済学		2	○		米 倉 茂	経済
	経済学	経済学の歴史	2	○	○鍋	諸 泉 俊 介	全学
	会計学		2	○		山 下 壽 文	経済
	経営学		2		○	山 本 長 次	経済
	法律学		2	○		中 山 泰 道	経済
	日本国憲法		2	○	○	城 下 健太郎	非常勤
	日本国憲法		2	○	○	城 下 健太郎	非常勤
	日本国憲法		2	○	○	城 下 健太郎	非常勤
	社会思想史		2	○		諸 泉 俊 介	全学
	地理学		2		○	五十嵐 勉	全学
教育と人間							
	教育学	教育の研究課題	2	○		村 山 詩 帆	全学
	教育学	教育の社会学	2	○		村 山 詩 帆	全学
	教育学	教員のための環境教育	2		○	岡 島 俊 哉	文教
	教育学	障害児の教育と福祉	2	○		芳 野 正 昭	文教
	心理学A	心理学概論	2	○鍋		村久保 雅 孝	医
	心理学A	心の思想史	2	○		大 元 誠	文教
	心理学B	対人関係の心理学	2		○鍋	村久保 雅 孝	医
	心理学C	援助専門職のメンタルヘルス	2	○鍋		村久保 雅 孝	医
	障がい者支援論	遊具を活用した障害児の発育促進	2		○鍋	松 尾 ・ 井 手	医・非
	Citizenship Education		2		○	新 任 教 員	文教
	情報メディアと倫理		2	○		大 谷 誠	情報
	情報メディアと倫理		2		○	堀 良 彰	全学
	身体表現入門		2	○		青 柳 達 也	非常勤
	授業支援入門		2		○	穂 屋 下 ・ 角	全学・文教
	学習障害と授業		2	○		園 田 貴 章	文教
現代社会の諸相							
	現代人権論		2	○		松 下 一 世	文教
	ジャーナリズムの現在	地方紙の役割とメディアリテラシー	2		○	上 山 和 俊	経済
	環境科学Ⅰ		2	○		岡島 俊哉 他	文教
	環境経営学		2	○		辻 井 ・ 小 川	非・経済
	環境会計		2		○	小 川 哲 彦	経済
	作業環境測定論		2	○		兒 玉 宏 樹	分析
	衛生管理論		2		○	寺 東 宏 明	分析
	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論		2	○		堀 川 悦 夫 他	医
	高齢者・障がい者就労支援の諸理論		2		○	松 爲 ・ 堀 川	非・医
	インストラクショナル・デザイン		2	○	○	角 ・ 藤 井	文教・全学
現代社会の分野特別講義							
	佐賀環境フォーラムⅠ	身近な環境－知ろう・見よう・考えよう	2	○		兒 玉 ・ 宮 島	分析・工
	佐賀環境フォーラムⅡ	身近な環境－調べよう・深めよう・伝えよう	2	○		兒 玉 ・ 宮 島	分析・工

総合科目

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
合宿共同授業	郡 山 益 実		1 年	前学期	集中	2
国際交流実習	未 定		1 年	未定		2
キャリアデザイン	森 田 佐知子		1 年	後学期	水 2	2

外国人留学生用科目

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本事情（自然科学と技術）	堀 良 彰		1 年	—	—	2
日本事情（文化）	宮 武 正 登		1 年	後学期	未定	2
日本事情（現代社会）	諸 泉 俊 介		1 年	前学期	水 1	2

インターフェース科目

環境コース

前学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
機械工学と環境Ⅰ（エネルギーと環境問題）	2	前学期	永 田 修 一 他	海エネ
電気電子工学と環境Ⅰ（環境と電気工学）	2	前学期	猪 原 哲	工学系
有明海学Ⅰ（有明海学概論）	2	前学期	速 水 祐 一 他	低 他
地域環境の保全と市民社会Ⅰ（環境保全運動と市民）	2	前学期	五十嵐 勉	全学
環境教育Ⅰ（環境原論）	2	前学期	速 水 祐 一 他	低 他
環境教育Ⅱ（実習Ⅰ・Ⅱ）	2	前学期	市 場 正 良 他	医 他

後学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
機械工学と環境Ⅱ（設計・加工技術と環境）	2	後学期	張 波 他	工学系
電気電子工学と環境Ⅱ（環境と電磁工学）	2	後学期	村 松 和 弘	工学系
有明海学Ⅱ（干潟の役割）	2	後学期	郡 山 益 実	全学・低
地域環境の保全と市民社会Ⅱ（佐賀環境フォーラムⅢ）	2	後学期	宮 島 ・ 兒 玉	工・分析

文化と共生コース

前学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
アジアの理解Ⅰ（アジアの地理・歴史・文化）	2	前学期	鄭 菊 花	非
芸術創造Ⅱ（美術・工芸の歴史・理論）	2	前学期	荒 木 博 申 他	文教
異文化交流Ⅰ（「異文化交流」入門）	2	前学期	布 尾 ・ 中 山	全学・全学
異文化交流Ⅱ（Outdoor Education in English）	2	前学期	フ ェ ル ナ ー	全学
男女共同参画とジェンダーⅠ（社会権とジェンダー）	2	前学期	吉 岡 剛 彦	文教
Intercultural CommunicationⅠ	2	前学期	ア ン ゴ ー プ	全学
Intercultural CommunicationⅠ	2	前学期	サ ウ ス	全学
Intercultural CommunicationⅡ	2	前学期	ボ ー マ ン	全学
Intercultural CommunicationⅡ	2	前学期	サ ウ ス	全学
映像・デジタル表現Ⅰ（デジタル表現入門）	2	前学期	穂屋下 茂 他	全学 他
映像・デジタル表現Ⅱ（アニメーション表現）	2	前学期	中 村 隆 敏	文教
映像・デジタル表現Ⅳ（デジタル表現修了研究）	2	前学期	穂屋下 茂 他	全学 他

後学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
アジアの理解Ⅱ（アジアの社会）	2	後学期	高 橋 ・ 田 中	文教・文教
芸術創造Ⅰ（音楽の理論・歴史）	2	後学期	橋 本 正 昭	文教
異文化交流Ⅰ（Sequential Drawing in English）	2	後学期	ボ ー マ ン	全学
異文化交流Ⅱ（異文化間コミュニケーション）	2	後学期	早 瀬 博 範	文教
異文化交流Ⅱ（異文化間衝突の作法）	2	後学期	木 原 誠	文教
男女共同参画とジェンダーⅡ（教育とジェンダー）	2	後学期	宮 地 歌 織	男女共同
Intercultural CommunicationⅠ	2	後学期	新 採 採 用	全学
Intercultural CommunicationⅡ	2	後学期	ボ ー マ ン	全学
Intercultural CommunicationⅢ	2	後学期	サ ウ ス	全学
Intercultural CommunicationⅣ	2	後学期	マ イ ヤ ホ フ	全学
映像・デジタル表現Ⅲ（CG表現）	2	後学期	中 村 隆 敏	文教

生活と科学コース

前学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
現代社会における消費Ⅰ（消費生活環境論）	2	前学期	赤 星 ・ 甲 斐	文教・文教
アントレプレナーシップⅠ（導入）	2	前学期	佐 藤 三 郎 他	産学 他
リサーチ・リテラシーⅠ（くらしの中の統計）	2	前学期	村 山 詩 帆	全学
食料と生活Ⅰ（食料の生産と課題）	2	前学期	鄭 紹 輝 他	農
未来を拓く材料の科学Ⅰ（有機機能性材料の科学）	2	前学期	竹 下 道 範 他	工学系
エレクトロニクスと生活Ⅰ（通信のしくみ）	2	前学期	佐々木 伸 一	工学系
情報技術者キャリアデザインⅠ（情報技術者キャリアデザイン入門）	2	前学期	掛 下 ・ 中 山	工学系・工学系

後学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
現代社会における消費Ⅱ（消費者と法）	2	後学期	岩 本 諭	理事
アントレプレナーシップⅡ（基礎）	2	後学期	佐 藤 三 郎 他	産学 他
リサーチ・リテラシーⅡ（やさしい統計計算）	2	後学期	郡 山 益 実	全学
食料と生活Ⅱ（食料資源の保護）	2	後学期	大 島 一 里 他	農
未来を拓く材料の科学Ⅱ（無機機能性材料の科学）	2	後学期	矢 田 光 徳 他	工学系
エレクトロニクスと生活Ⅱ（生体に学ぶ情報処理入門）	2	後学期	和久屋 寛	工学系
情報技術者キャリアデザインⅡ（テクニカル・コミュニケーション）	2	後学期	皆 本 ・ 岡 崎	工学系

医療・福祉と社会コース

前学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
現代社会と医療Ⅰ（医療科学史）	2	前学期	青 木 歳 幸	非
現代社会と医療Ⅱ（医療人キャリアデザイン）	2	前学期	吉 田 和 代	医
食と健康Ⅰ（食物科学）	2	前学期	市 場 正 良 他	医 他
食と健康Ⅱ（医療人キャリアデザイン）	2	前学期	吉 田 和 代	医
子どもの発達支援Ⅰ（発達障害・心身症（不登校）と小児保健）	2	前学期	藤 田 一 郎	非
子どもの発達支援Ⅱ（児童福祉施設の目的と役割）	2	前学期	松 山 郁 夫	文教
障がい者就労支援Ⅰ（生活就労支援におけるカウンセリングの基礎）	2	前学期	堀 川 悦 夫	医
障がい者就労支援Ⅱ（テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論）	2	前学期	井 手 將 文 他	非

※医学部以外の学生は、2年次で科目Ⅰを、3年次で科目Ⅱを履修する

後学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
現代社会と医療Ⅲ（公害・薬害問題と人権）	2	後学期	市 場 正 良	医
現代社会と医療Ⅳ（環境と健康：人間環境科学）	2	後学期	寺 東 宏 明	総合
食と健康Ⅲ（運動と栄養）	2	後学期	西 田 裕一郎 他	医 他
食と健康Ⅳ（年齢と健康：薬の話）	2	後学期	藤 戸 博	医
子どもの発達支援Ⅲ（発達障害と不登校への心理・教育支援）	2	後学期	園 田 貴 章 他	文教
子どもの発達支援Ⅳ（家族支援と子育てスキル）	2	後学期	網 谷 ・ 中 島	文教・文教
障がい者就労支援Ⅲ（障がい特性と就労支援実践）	2	後学期	井 手 將 文 他	非
障がい者就労支援Ⅳ（医療的ケアを必要とする就労支援と事例研究）	2	後学期	堀 川 悦 夫	医

※医学部以外の学生は、2年次で科目Ⅲを、3年次で科目Ⅳを履修する

地域・佐賀学コース

前学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
佐賀の歴史文化Ⅰ（佐賀の歴史概説）	2	前学期	伊 藤 昭 弘	地歴
地域経済と社会Ⅰ（地域と産業）	2	前学期	宮 崎 卓 朗	経済
地域創成学Ⅰ（地域学入門）	2	前学期	五十嵐 勉 他	全学 他

後学期

授 業 科 目	単位数	開講学期	担当教員	
			氏 名	所属部局
佐賀の歴史文化Ⅱ（古文書からみる佐賀の歴史）	2	後学期	伊 藤 昭 弘	地歴
地域経済と社会Ⅱ（地域と農業）	2	後学期	白 武 義 治	農
地域創成学Ⅱ（地域コミュニティ論）	2	後学期	五十嵐 ・ 山 内	全学・全学

学部間共通教育科目

共通専門基礎科目

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
微分積分学基礎Ⅰ	梶木屋 龍 治	理工学部（機能）	1 年	前学期	水 3	2
微分積分学基礎Ⅱ	梶木屋 龍 治	理工学部（機能）	1 年	後学期	水 3	2
線形代数学基礎Ⅰ	市 川 尚 志	理工学部（機能）	1 年	前学期	火 5	2
基礎数学	青 山 崇 洋	農学部	1 年	前学期	火 1	2
基礎数学	河 合 茂 生	農学部	1 年	前学期	火 1	2
基礎数学	前 田 定 廣	農学部	1 年	前学期	火 1	2
基礎力学	河 野 宏 明	理工学部（電気電子）	1 年	前学期	木 4	2
基礎力学	河 野 宏 明	理工学部（機能）	1 年	後学期	月 1	2
基礎電磁気学	石 渡 洋 一	理工学部（機能）	1 年	後学期	火 2	2

短期留学生プログラム教育科目

前学期（SPACE 春学期）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本事情研修B	古 賀 ・ 丹 羽	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	水 4	2
日本事情研修D	布 尾 ・ 中 山	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	火 4	2
文化と化学	中 島 道 夫	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	金 2	2
日本に関する WEB ページ製作応用	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	月 2	2
言語学における野外手法	古 賀 ・ 小 野	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	火 4	2
理工学部紹介B	村 松 和 弘 他	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
概説・農学と環境学	宮本・稲葉・小林(恒)	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	水 5	2
バイオ関連化学	宗 伸 明	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	水 2	2
自主研究		短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2

後学期（SPACE 秋学期）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本事情研修A	古 賀 ・ 丹 羽	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	水 4	2
日本事情研修C	未 定	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
日本に関する WEB ページ製作入門	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
日本・東南アジア関係論	山 崎 功	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
朝鮮現代政治	森 善 宣	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
我が国の環境保全の最新情報	岡 島 俊 哉 他	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
アカデミック ライティング	マッカーサー ジョン ダグラス	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
理工学紹介A	村 松 和 弘 他	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
概説・応用生物学	応用生物化学科教員全員	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
自主研究		短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2

全学教育機構関係規則

佐賀大学全学教育機構規則

佐賀大学教養教育科目履修規程

佐賀大学教養教育科目履修細則

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程

佐賀大学全学教育機構規則

(平成23年 3 月23日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年 4 月 1 日制定）第18条の 2 第 2 項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、佐賀大学（以下「本学」という。）の目的、使命にのっとり、本学の共通教育（学部が編成する教育課程における教養教育及び分野横断的教育プログラム等の学部に通ずる教育をいう。以下同じ。）、国際教育（留学生教育（派遣及び受入れ）の充実及び強化をいう。以下同じ。）及び高等教育開発（本学の教育に関する研究開発、企画及び支援をいう。以下同じ。）並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証等に資することを目的とする。

(業務)

第3条 機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育の企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際教育の企画、立案及び実施に関すること。
- (3) 高等教育開発に関すること。
- (4) 情報通信技術を活用した教育の支援に関すること。
- (5) その他前条の目的を達成するための必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 機構に、次に掲げる組織を置く。

- (1) 教員組織
- (2) 教育組織
- (3) 支援組織

2 前項第1号の教員組織には、専門分野別に組織した部門を置く。

3 第1項第2号の教育組織には、教育分野別に組織した部会を置く。

4 第1項第3号の支援組織には、高等教育開発室及び情報通信技術活用教育支援室を置く。

(職員等)

第5条 機構に、次の職員を置く。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 専任の教員
- (4) 併任の教員
- (5) その他必要な職員

2 前項各号に掲げる職員のほか、機構に特任教員を置くことができる。

3 第1項第4号の併任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 第1項各号に掲げる職員のほか、機構が開講する授業科目を担当し、及びその他の機構に関する業務を

担当する教員を学内の教員のうちから委嘱し、協力教員とする。

(機構長)

第6条 機構長は、副学長のうちから学長が指名した者をもって充てる。

- 2 機構長は、機構の業務を掌理する。
- 3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副機構長)

第7条 副機構長は、本学の専任の教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

- 2 副機構長は、機構長を助け、機構の業務を整理する。
- 3 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副機構長を指名した機構長の任期の終期を超えることはできない。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第8条 第4条第2項に規定する部門に、部門長を置く。

- 2 部門長は、部門の業務を掌理する。
- 3 部門長は、機構の専任又は併任の教授又は准教授のうちから、第12条に規定する運営委員会の議を経て、機構長が定める。
- 4 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第9条 第4条第3項に規定する部会に、部会長を置く。

- 2 部会長は、部会の業務を掌理する。
- 3 部会長は、機構の専任又は併任の教授又は准教授のうちから、第12条に規定する運営委員会の議を経て、機構長が定める。
- 4 部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 部会長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(高等教育開発室長)

第10条 第4条第4項に規定する高等教育開発室に、高等教育開発室長を置く。

- 2 高等教育開発室長は、副機構長のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

(情報通信技術活用教育支援室長)

第11条 第4条第4項に規定する情報通信技術活用教育支援室に、情報通信技術活用教育支援室長を置く。

- 2 情報通信技術活用教育支援室長は、機構の専任又は併任の教員のうちから、機構長が指名した者をもって充てる。
- 3 情報通信技術活用教育支援室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 情報通信技術活用教育支援室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第12条 機構に、その管理運営に関する重要な事項を審議するため、佐賀大学全学教育機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第13条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員の選考に関する事項
- (2) 共通教育の編成及び実施に関する事項
- (3) 国際教育の編成及び実施に関する事項
- (4) 高等教育開発に関する事項
- (5) 情報通信技術を活用した教育の支援に関する事項
- (6) その他機構の管理運営に関する事項

(組織)

第14条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
 - (2) 副機構長
 - (3) 部門長
 - (4) 部会長
 - (5) 高等教育開発室長
 - (6) 情報通信技術活用教育支援室長
 - (7) 各学部（理工学部を除く。）から選出された者 各1人
 - (8) 工学系研究科から選出された者 1人
 - (9) その他本学の職員のうちから学長が指名した者
- 2 前項第7号から第9号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第7号から第9号までの委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第15条 運営委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議事を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、副機構長のうちからあらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

(議事)

第16条 運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、第13条第1号及び運営委員会が特に必要があると認めた事項については、出席者の3分の2以上の多数をもって議決しなければならない。
- 3 前2項の議事に当たり、第14条の各委員で同一人が複数の役職を兼ねるときは、当該役職の数にかかわらず、1人の構成員及び1人の出席者として取り扱うものとする。

(専門委員会)

第17条 運営委員会に、専門委員会を置くことができる。

(教員会議)

第18条 機構に、機構長が機構の業務に関し意見聴取及び連絡調整を行うため、教員会議を置く。

(事務)

第19条 機構の事務は、学務部教務課が行う。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、機構に関し、必要な事項については、運営委員会の議を経て、機構長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 学長は、この規則施行後2年を経過する前までに、機構に関する検討状況を勘案し、この規則の規定について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に応じて所要の見直しを行うものとする。

附 則（平成23年10月26日改正）

この規則は、平成23年10月26日から施行する。

附 則（平成24年3月28日改正）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際現に部門長、部会長、情報通信技術活用教育支援室長及び併任の教員の職にある者の任期は、改正後の第5条第3項、第8条第4項、第9条第4項及び第11条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 3 この規則施行後最初に選出される第14条第1項第7号から第9号までの運営委員会委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 4 佐賀大学高等教育開発センター規則（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

佐賀大学教養教育科目履修規程

(平成25年2月27日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）第17条第2項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構（以下「全学教育機構」という。）が開設する教養教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教養教育科目の区分)

第2条 教養教育科目の区分は、次のとおりとする。

大学入門科目

共通基礎科目

基本教養科目

インターフェース科目

2 共通基礎科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報リテラシー科目に区分する。

3 基本教養科目は、自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野の各授業科目をもって構成する。

4 外国人留学生のための授業科目等の特例は、別に定める。

(単位数)

第3条 各学部が定める学科又は課程の教養教育科目の単位数は、別表のとおりとする。

(授業科目及び履修方法)

第4条 教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法等は、佐賀大学教養教育科目履修細則（平成25年2月27日全部改正）の定めるところによる。

(履修手続)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期間に定められた方法により手続をしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第6条 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第7条 試験は、各授業科目につき、学期ごとに行うことを原則とする。

2 追試験及び再試験については、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の単位認定等)

第8条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設等における学修及び入学前の他の大学又は短期大学における授業科目の履修により修得した単位を、所属学部の教授会の議に基づき、認定する。

(科目等履修生)

第9条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表（第3条関係）

学部	学科・課程	教養教育科目											
		大学入門科目	共通基礎科目						基本教養科目			インターフェース科目	合計
			外国語科目		健康・スポーツ科目		情報リテラシー科目		自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		
			英語	ドイツ語 フランス語 中国語 朝鮮語	講義	実習	講義	演習					
文化教育学部	学校教育課程	2	4			2	2	2	1	8		8	29
	国際文化課程	4	4			2	2	2	1	10		8	33
	人間環境課程	2	2	2		2	2	2	1	10		8	31
	美術・工芸課程	2	4		2	2	2	1		10	8	31	
2			2										
経済学部	経済学科	2	4	4		2	2	2		12		8	36
	経営学科	2	4	4		2	2	2		12		8	36
	経済法学科	2	4	4		2	2	2		12		8	36
医学部	医学科	4	4	2				2	1	12		8	33
	看護学科	2	4	2				2		12		8	30
理工学部	数理科学科	4	4	4		2	2			10		8	34
	物理科学科	4	4	4		2	2			12		8	36
	知能情報システム学科	4	4	2		2	2	2	1	12		8	37
	機能物質化学科	4	4				2		2	12		8	32
	機械システム工学科	4	4	2			2		2	8		8	30
	電気電子工学科	4	4	2		2	2	2	1	10		8	35
	都市工学科	4	4	2		2	2	2	1	8		8	33
農学部	応用生物科学科	2	4	4		2	2	2	1	12		8	37
	生物環境科学科	2	4	4		2	2	2	1	12		8	37
	生命機能科学科	2	4	4		2	2	2	1	12		8	37

備考 文化教育学部美術・工芸課程の外国語科目については、4単位（英語4単位又は英語2単位及びドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語のいずれか2単位）を修得しなければならない。

佐賀大学教養教育科目履修細則

(平成25年 2 月27日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成25年 2 月27日全部改正。以下「履修規程」という。）第4条の規定に基づき、教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(大学入門科目)

第2条 大学入門科目の授業科目は、大学入門科目Ⅰ及び大学入門科目Ⅱとする。

2 大学入門科目の履修すべき授業科目、修得すべき単位数及び履修時期については、各学部の定めるところによる。

(共通基礎科目)

第3条 共通基礎科目（外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目）の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

2 共通基礎科目の履修すべき授業科目、修得すべき単位数については、各学部の定めるところによる。

(基本教養科目)

第4条 基本教養科目の各分野における授業科目及び単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

2 前項の各分野における授業科目のほか、複数の分野にわたる授業科目として総合科目を開設することがある。

3 学生は、各学部の定めるところにより、「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から所定の単位を修得しなければならない。

(インターフェース科目)

第5条 インターフェース科目は、インターフェースプログラム及びインターフェース演習科目をもって構成する。

2 インターフェースプログラムは、それぞれ4つの授業科目をもって構成する。

3 インターフェースプログラム及びインターフェース演習科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅲのとおりとする。

4 インターフェース演習科目の授業科目の単位をインターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがある。

5 学生は、1年次の後学期の終りまでに、インターフェースプログラムのうちから1つのプログラムを選んで登録し、原則として2年次以降に、前項の別表Ⅲに規定するプログラム内の各授業科目を履修し、8単位以上を修得しなければならない。

6 インターフェースプログラム登録の変更は、届出により、2年次の後学期の終りに認めることがある。

7 3年次に転入学、編入学又は再入学した者については、3年次にインターフェースプログラムの登録を行うことができる。

(授業科目等の特例)

第6条 第2条から前条までに定めるもののほか、外国人留学生のための授業科目として、日本語及び日本事情に関する科目を別表Ⅰ、別表Ⅳ及び別表Ⅴのとおり開設する。

(授業科目の年次等指定)

第7条 授業科目によっては、年次又はクラスを指定することがある。

2 指定されたクラス以外のクラスで履修しようとする場合は、あらかじめ所定の指定外履修願を提出しなければならない。

(単位の授与)

第8条 授業科目の単位は、学期ごとに与える。ただし、特に指定する授業科目の単位は、学年ごとに与える。

(追試験)

第9条 やむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった授業科目について、追試験を行うことがある。

(再試験)

第10条 不合格と判定された授業科目について、再試験を行うことがある。

(雑則)

第11条 この細則に定めるもののほか、教養教育科目の履修に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

1 この細則は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年2月26日改正）

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

別表Ⅰ（第3条、第6条関係）

共通基礎科目の授業科目及び単位数

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
外 国 語 科 目	英語 A	1	
	英語 B	1	
	英語 C	1	
	英語 D	1	
	Intercultural English:Awakenings	1	留学支援英語教育カリキュラム 受講者のための科目
	Integrated Speaking:Awakenings	1	
	Intercultural English:Bridging	1	
	Integrated Writing:Awakenings	1	
	Integrated Writing:Bridging	1	
	English Test Success:TOEFL I	1	
	Integrated Speaking:Bridging	1	
	English Test Success:TOEFL II	1	
	ドイツ語Ⅰa	1	a は前学期、b は後学期の開講
	ドイツ語Ⅰb	1	
	ドイツ語Ⅱa	1	
	ドイツ語Ⅱb	1	
	フランス語Ⅰa	1	
	フランス語Ⅰb	1	
	フランス語Ⅱa	1	
	フランス語Ⅱb	1	
	中国語Ⅰa	1	
	中国語Ⅰb	1	
	中国語Ⅱa	1	
	中国語Ⅱb	1	
	朝鮮語Ⅰa	1	
	朝鮮語Ⅰb	1	
	朝鮮語Ⅱa	1	
	朝鮮語Ⅱb	1	
	日本語Ⅰ	2	外国人留学生のための科目
	日本語Ⅱ	2	
健康・スポーツ科目	健康スポーツ科学	2	} 前学期・後学期各1単位
	スポーツ実習Ⅰ	1	
	スポーツ実習Ⅱ	1	
情報リテラシー科目	情報基礎概論	2	
	情報基礎演習Ⅰ	1	
	情報基礎演習Ⅱ	1	

(備考)

- 1 外国人留学生が外国語科目を履修する場合は、次に定めるところによる。
 - (1) 母語を選択しないこと。
 - (2) 修得した日本語Ⅰ又はⅡの単位は、外国語科目のうちの他の授業科目の単位に読み替えることができる。
- 2 別に定める「海外語学研修プログラムにおける教養教育科目（外国語科目）の単位認定要項」に基づいて実施された海外語学研修で修得した単位は、履修規程別表（第3条関係）に掲げる外国語科目の単位数として含めることができる。
- 3 修得した留学支援英語教育カリキュラム受講者のための科目の単位は、下記のとおり読み替えることができる。

修得科目	単位数	読替科目	単位数	備考
Intercultural English:Awakenings	1	英語 A	1	修得科目のいずれかを読替科目 1 単位に読み替えることができる。
Integrated Speaking:Awakenings	1			
Intercultural English:Bridging	1	英語 B	1	
Integrated Writing:Awakenings	1			
Integrated Writing:Bridging	1	英語 C	1	
English Test Success:TOEFL I	1			
Integrated Speaking:Bridging	1	英語 D	1	
English Test Success:TOEFL II	1			

別表Ⅱ（第4条関係）

基本教養科目の授業科目及び単位数

（自然科学と技術の分野）

区 分	授 業 科 目	単位数
基礎自然科学	基礎数理の世界	2
	応用数理の世界	2
	物理の世界Ⅰ	2
	物理の世界Ⅱ	2
	実験物理学	2
	化学の世界A	2
	化学の世界B	2
	実験化学Ⅰ	2
	実験化学Ⅱ	2
	生物学の世界	2
	地学の世界	2
自然科学・技術の現代的諸相	Breakthroughs in the Modern Age	2
	The Natural World	2
	情報科学の世界Ⅰ	2
	情報科学の世界Ⅱ	2
	機械工学の世界A	2
	機械工学の世界B	2
	電気電子工学の世界A	2
	電気電子工学の世界B	2
	都市と生活	2
	環境科学Ⅱ	2
	環境保全論Ⅰ	2
	環境保全論Ⅱ	2
	資源循環論Ⅰ	2
	資源循環論Ⅱ	2
	地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし	2
	わかりやすい機構学	2
	セラミックスの不思議	2
	21世紀のエネルギーと環境問題	2
生物科学・生命科学	生物科学の世界A	2
	生物科学の世界B	2
	生物科学の世界C	2
	生物科学の世界D	2
	栄養と健康の科学	2
	暮らしの中の生命科学	2
	生命科学の基礎A	2
	生命科学の基礎B	2
	生命科学の基礎C	2
	生命科学の基礎D	2
	生命科学の基礎E	2
	生命科学の基礎F	2
特別講義	自然科学と技術の分野特別講義	

（備考）自然科学と技術の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

(文化の分野)

単 位 数	授 業 科 目	区分
文学と芸術	日本文学	2
	アジアの文化・文学	2
	欧米の文化・文学	2
	芸術論	2
	画像へのアプローチ	2
	伝統工芸と匠	2
	映像制作入門	2
	シルクロード入門	2
言語と表現	日本語学	2
	言語学	2
	応用言語学	2
	コミュニケーション論	2
	記号論	2
	Critical Thinking for the Modern Age	2
	Cultural Metaphors	2
	デジタル表現技法	2
	教育デジタル表現	2
	プロデューサー原論	2
	映画製作	2
歴史と文化	哲学・倫理学	2
	東洋思想	2
	考古学	2
	日本史	2
	東洋史	2
	西洋史	2
	人類学	2
特別講義	文化の分野特別講義	

(備考) 文化の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

(現代社会の分野)

区 分	授 業 科 目	単位数
基礎社会科学	経済学	2
	会計学	2
	経営学	2
	法律学	2
	政治学	2
	日本国憲法	2
	社会思想史	2
	地理学	2
教育と人間	教育学	2
	心理学 A	2
	心理学 B	2
	心理学 C	2
	障がい者支援論	2
	Citizenship Education	2
	情報メディアと倫理	2
	身体表現入門	2

	授業支援入門	2
	発達障害と神経心理学	2
	心の個人差	2
	心身の障害	2
	心の病と癒しのプロセス	2
	子どもの病気と子育て	2
	学習障害と授業	2
	心身の発達過程	2
	現代人権論	2
現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	2
	環境科学Ⅰ	2
	環境科学Ⅲ	2
	環境経営学	2
	環境会計	2
	作業環境測定論	2
	衛生管理論	2
	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	2
	高齢者・障がい者就労支援の諸理論	2
特別講義	インストラクショナル・デザイン	2
	現代社会の分野特別講義	

（備考）現代社会の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

（総合科目）

授 業 科 目	単 位 数	備 考
合宿共同授業	2	九州地区国立大学間合宿共同授業による授業科目
国際交流実習	2	
キャリアデザイン	2	

（備考）

- 1 合宿共同授業の履修により修得した授業科目の単位は、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。
- 2 総合科目の授業科目の履修により修得した単位は、基本教養科目の各分野いずれかの単位数に含めることができる。

別表Ⅲ（第5条関係）

インターフェース科目の授業科目及び単位数

（環境コース）

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
機械工学と環境	機械工学と環境Ⅰ	2
	機械工学と環境Ⅱ	2
	機械工学と環境Ⅲ	2
	機械工学と環境Ⅳ	2
電気電子工学と環境	電気電子工学と環境Ⅰ	2
	電気電子工学と環境Ⅱ	2
	電気電子工学と環境Ⅲ	2
	電気電子工学と環境Ⅳ	2
有明海学	有明海学Ⅰ	2
	有明海学Ⅱ	2
	有明海学Ⅲ	2
	有明海学Ⅳ	2
地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅰ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅱ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅲ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅳ	2
環境教育	環境教育Ⅰ	2
	環境教育Ⅱ	2
	環境教育Ⅲ	2
	環境教育Ⅳ	2

（文化と共生コース）

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
アジアの理解	アジアの理解Ⅰ	2
	アジアの理解Ⅱ	2
	アジアの理解Ⅲ	2
	アジアの理解Ⅳ	2
芸術創造	芸術創造Ⅰ	2
	芸術創造Ⅱ	2
	芸術創造Ⅲ	2
	芸術創造Ⅳ	2
異文化交流	異文化交流Ⅰ	2
	異文化交流Ⅱ	2
	異文化交流Ⅲ	2
	異文化交流Ⅳ	2
男女共同参画とジェンダー	男女共同参画とジェンダーⅠ	2
	男女共同参画とジェンダーⅡ	2
	男女共同参画とジェンダーⅢ	2
	男女共同参画とジェンダーⅣ	2
Intercultural Communication	Intercultural CommunicationⅠ	2
	Intercultural CommunicationⅡ	2
	Intercultural CommunicationⅢ	2
	Intercultural CommunicationⅣ	2
映像・デジタル表現	映像・デジタル表現Ⅰ	2
	映像・デジタル表現Ⅱ	2
	映像・デジタル表現Ⅲ	2
	映像・デジタル表現Ⅳ	2

(生活と科学コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
現代社会における消費	現代社会における消費Ⅰ	2
	現代社会における消費Ⅱ	2
	現代社会における消費Ⅲ	2
	現代社会における消費Ⅳ	2
アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップⅠ	2
	アントレプレナーシップⅡ	2
	アントレプレナーシップⅢ	2
	アントレプレナーシップⅣ	2
リサーチ・リテラシー	リサーチ・リテラシーⅠ	2
	リサーチ・リテラシーⅡ	2
	リサーチ・リテラシーⅢ	2
	リサーチ・リテラシーⅣ	2
食料と生活	食料と生活Ⅰ	2
	食料と生活Ⅱ	2
	食料と生活Ⅲ	2
	食料と生活Ⅳ	2
未来を拓く材料の科学	未来を拓く材料の科学Ⅰ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅱ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅲ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅳ	2
エレクトロニクスと生活	エレクトロニクスと生活Ⅰ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅱ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅲ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅳ	2
情報技術者キャリアデザイン	情報技術者キャリアデザインⅠ	2
	情報技術者キャリアデザインⅡ	2
	情報技術者キャリアデザインⅢ	2
	情報技術者キャリアデザインⅣ	2

(医療・福祉と社会コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
現代社会と医療	現代社会と医療Ⅰ	2
	現代社会と医療Ⅱ	2
	現代社会と医療Ⅲ	2
	現代社会と医療Ⅳ	2
食と健康	食と健康Ⅰ	2
	食と健康Ⅱ	2
	食と健康Ⅲ	2
	食と健康Ⅳ	2
子どもの発達支援	子どもの発達支援Ⅰ	2
	子どもの発達支援Ⅱ	2
	子どもの発達支援Ⅲ	2
	子どもの発達支援Ⅳ	2
障がい者就労支援	障がい者就労支援Ⅰ	2
	障がい者就労支援Ⅱ	2
	障がい者就労支援Ⅲ	2
	障がい者就労支援Ⅳ	2

(地域・佐賀学コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
佐賀の歴史文化	佐賀の歴史文化Ⅰ	2
	佐賀の歴史文化Ⅱ	2
	佐賀の歴史文化Ⅲ	2
	佐賀の歴史文化Ⅳ	2
地域経済と社会	地域経済と社会Ⅰ	2
	地域経済と社会Ⅱ	2
	地域経済と社会Ⅲ	2
	地域経済と社会Ⅳ	2
地域創成学	地域創成学Ⅰ	2
	地域創成学Ⅱ	2
	地域創成学Ⅲ	2
	地域創成学Ⅳ	2

(インターフェース演習科目)

授 業 科 目	単位数
インターフェース演習	2

(備考) インターフェース演習は、各コースのインターフェースプログラムを構成する科目とは別に、特定の課題を掲げて、2単位として開講する。本授業科目について修得した単位は、担当教員と、関係するインターフェース部長及びプログラム責任者との協議に基づき、当該プログラムの単位数に含めることができる。

別表Ⅳ (第6条関係)

外国人留学生のための授業科目及び単位数

授 業 科 目	分 野	単位数
日本事情 (自然科学と技術)	自然科学と技術	2
日本事情 (文化)	文化	2
日本事情 (現代社会)	現代社会	2

(備考) 上記の授業科目について修得した単位は、履修規程別表 (第3条関係) に掲げる基本教養科目のそれぞれの分野の単位数に含めることができる。

別表Ⅴ（第6条関係）

外国人留学生プログラムのための授業科目及び単位数

授業科目	単位数
日本語総合Ⅰ	6
日本語漢字・語彙Ⅰ	1
日本語文法Ⅰ	1
日本語会話Ⅰ	1
日本語読解Ⅰ	1
日本語総合Ⅱ	6
日本語漢字・語彙Ⅱ	1
日本語文法Ⅱ	1
日本語会話Ⅱ	1
日本語読解Ⅱ	1
日本語作文Ⅱ	1
日本語総合Ⅲ	5
日本語漢字・語彙Ⅲ	1
日本語会話Ⅲ	1
日本語読解Ⅲ	1
日本語作文Ⅲ	1
日本語漢字・語彙Ⅳ	1
日本語会話Ⅳ	1
日本語読解Ⅳ	2
日本語作文Ⅳ	1
日本語聴解Ⅳ	1
日本語発表Ⅴ	1
日本語読解Ⅴ	1
日本語作文Ⅴ	1
日本語聴解Ⅴ	1
日本語会話Ⅵ(A)	1
日本語会話Ⅵ(B)	1
日本語発表Ⅵ(A)	1
日本語発表Ⅵ(B)	1
日本語読解Ⅵ(A)	1
日本語読解Ⅵ(B)	1
日本語作文Ⅵ(A)	1
日本語作文Ⅵ(B)	1

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程

(平成25年 2月27日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年 4月 1日制定。以下「学則」という。）第16条第 6 項及び佐賀大学全学教育機構規則（平成23年 3月23日制定）第 3 条第 1 項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構（以下「全学教育機構」という。）が開設する学部間共通教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学部間共通教育科目の区分)

第2条 学部間共通教育科目は、共通専門基礎科目、特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目に区分する。

2 共通専門基礎科目は、一般的かつ基礎的な専門教育科目とする。

3 特定プログラム教育科目は、学則第17条の 2 第 1 項により編成される全学共通の教育プログラムにおいて開設する全学の学生を対象とした専門教育科目とする。

4 留学生プログラム教育科目は、佐賀大学短期留学プログラム規程（平成16年 4月 1日制定）に基づく佐賀大学短期留学プログラムにおいて開設する専門教育科目とする。

(授業科目)

第3条 学部間共通教育科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

(単位の認定)

第4条 学部間共通教育科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数は、各学部の学科又は課程ごとに、別表Ⅱ及び別表Ⅲのとおりとする。

(準用規定)

第5条 学部間共通教育科目の履修手続、成績判定、単位の授与及び試験については、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成25年 2月27日全部改正）の規定を準用する。

(科目等履修生)

第6条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年 4月 1日制定）の定めるところによる。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成25年 4月 1日から施行する。

2 平成25年 3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、この規程を適用しない。

附 則

1 この規定は、平成26年 4月 1日から施行する。

2 平成26年 3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表Ⅲの規定は、平成25年度入学生及び平成25年度入学生の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者から適用する。

別表Ⅰ（第3条関係）

学部間共通教育科目の授業科目及び単位数

区 分		授 業 科 目	単位数
共通専門基礎科目		微分積分学基礎Ⅰ	2
		微分積分学基礎Ⅱ	2
		線形代数学基礎Ⅰ	2
		基礎数学	2
		基礎力学	2
		基礎電磁気学	2
特定プログラム 教育科目	デジタル表現技術教育科目	Web 表現	2
		プログラミング表現	2
		映像表現	2
		デジタルメディア・デザイン	2
	環境キャリア教育科目	環境対話Ⅰ	2
		環境対話Ⅱ	2
留学生プログラム教育科目		日本事情研修 A	2
		日本事情研修 B	2
		日本事情研修 C	2
		日本事情研修 D	2
		自主研究	2
	分野専門科目	文化教育学部分野専門科目	各 2
		経済学部分野専門科目	各 2
		理工学部分野専門科目	各 2
		農学部分野専門科目	各 2

備考 留学生プログラム教育科目の分野専門科目は、各学部が設定する科目であり、授業科目は、学期ごとに別に定める。

別表Ⅱ（第4条関係）

共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数

学部	学科・課程	授業科目	単位数	計
理 工 学 部	機能物質化学科	微分積分学基礎Ⅰ	2	10
		微分積分学基礎Ⅱ	2	
		線形代数学基礎Ⅰ	2	
		基礎力学	2	
		基礎電磁気学	2	
	電気電子工学科	基礎力学	2	2
農 学 部	応用生物科学科	基礎数学	2	2
	生物環境科学科	基礎数学	2	2
	生命機能科学科	基礎数学	2	2

別表Ⅲ（第4条関係）

特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学部	学科・課程	単位数			計
		特定プログラム教育科目		留学生プログラム教育科目	
		デジタル表現 技術教育科目	環境キャリア 教育科目		
文化教育学部	学校教育課程	文化教育学部履修細則に定める各課程・選修ごとの自由選択科目の単位数の範囲内とする。			
	国際文化課程				
	人間環境課程				
	美術・工芸課程				
経済学部	経済学科				
	経営学科				
	経済法学科				
医学部	医学科	2			2
	看護学科				
理工学部	数理科学科	2			2
	物理科学科	4			4
	知能情報システム学科				
	機能物質化学科				
	機械システム工学科				
	電気電子工学科				
	都市工学科	8			8
農学部	応用生物科学科	10			10
	生物環境科学科	10			10
	生命機能科学科	10			10

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程

(平成21年2月26日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定）第17条の2第2項の規定に基づき、佐賀大学（以下「本学」という。）における全学共通の教育プログラムによる教育課程に関し、必要な事項を定める。

(全学共通の教育プログラム)

第2条 本学に、全学共通の教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを開設し、その目的は、当該各号に定めるとおりとする。

- (1) デジタル表現技術者養成プログラム 専門分野の知識・技術に加え、表現対象を深く理解し、デジタル表現の技術及び能力を身に付けた創造的人材を養成すること。
- (2) 障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム 障がい者と就労先との間にあって、カウンセリング能力、コンサルティング能力及びコーディネート能力を有し、障がい者の潜在的能力開発と人間的成長を目標として活動できる人材を養成すること。
- (3) 環境キャリア教育プログラム 高い環境スキル及び環境マインドを有し、環境に関する現実的課題に実践的に対応できる人材を養成すること。

(授業科目、単位数及び修了要件)

第3条 教育プログラムの授業科目、単位数及び修了要件は、別表のとおりとする。

(履修の手続)

第4条 教育プログラムを履修しようとする者は、所定の期日までに、履修願その他必要な書類を学長に提出しなければならない。

(履修の許可)

第5条 学長は、教育プログラムの履修を許可した者に履修許可証を交付するものとする。

(修了の認定)

第6条 教育プログラムの修了要件を満たした者は、所定の期日までに、修了認定申請書（別記様式1）を学長に提出しなければならない。

2 学長は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、教育プログラムの修了を認定する。

(修了証の授与)

第7条 学長は、教育プログラムの修了の認定を受けた者に、卒業時に修了証（別記様式2）を授与する。

(事務)

第8条 教育プログラムに関する事務は、学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、教育プログラムに関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構において別に定める。

附 則

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、この規程を適用しない。

附 則（平成21年12月24日改正）

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、第2条第2号に規定する教育プログラムを履修することはできない。

附 則（平成23年3月23日改正）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、第2条第3号に規定する教育プログラムを履修することはできない。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年2月27日改正）

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規定は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表（第3条関係）

教育プログラム名	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件	対象者
デジタル表現技術者養成プログラム	特定プログラム教育科目	Web 表現	2	必修	全学部学科（課程）の学生
		プログラミング表現	2		
		映像表現	2		
		デジタルメディア・デザイン	2		
	インターフェース科目	映像・デジタル表現Ⅰ	2		
		映像・デジタル表現Ⅱ	2		
		映像・デジタル表現Ⅲ	2		
		映像・デジタル表現Ⅳ	2		
	基本教養科目	画像へのアプローチ	2	選択 8 単位以上 修得	
		伝統工芸と匠	2		
		映像制作入門	2		
		シルクロード入門	2		
		デジタル表現技法	2		
		教育デジタル表現	2		
		プロデューサー原論	2		
		映画製作	2		
		情報メディアと倫理	2		
		身体表現入門	2		
		授業支援入門	2		
		インストラクショナル・デザイン	2		
障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム	インターフェース科目	障がい者就労支援Ⅰ	2	必修	
		障がい者就労支援Ⅱ	2		
		障がい者就労支援Ⅲ	2		
		障がい者就労支援Ⅳ	2		
	基本教養科目	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	2		
		高齢者・障がい者就労支援の諸理論	2		
環境キャリア教育プログラム	特定プログラム教育科目	環境対話Ⅰ	2	必修	
		環境対話Ⅱ	2		
	インターフェース科目	環境教育Ⅰ	2		
		環境教育Ⅱ	2		
		環境教育Ⅲ	2		
		環境教育Ⅳ	2		
	基本教養科目	環境科学Ⅰ	2	選択 2 単位以上 修得	
		環境科学Ⅱ	2		
		環境科学Ⅲ	2		
		環境保全論Ⅰ	2		
		環境保全論Ⅱ	2		
		資源循環論Ⅰ	2		
		資源循環論Ⅱ	2		
		環境経営学	2		
		環境会計	2		
		作業環境測定論	2		
衛生管理論	2				

修 了 認 定 申 請 書

平成 年 月 日

佐賀大学長

○ ○ ○ ○ 様

所属学部

所属学科・課程

学籍番号

氏 名

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程第 6 条第 1 項により、下記教育プログラムの修了認定を申請します。

記

教育プログラム名 ○○○○○プログラム

修了証

氏 名

生年月日

本学における全学共通の教育プログラム「〇〇〇〇〇プログラム」を修了したことを証する。

平成 年 月 日

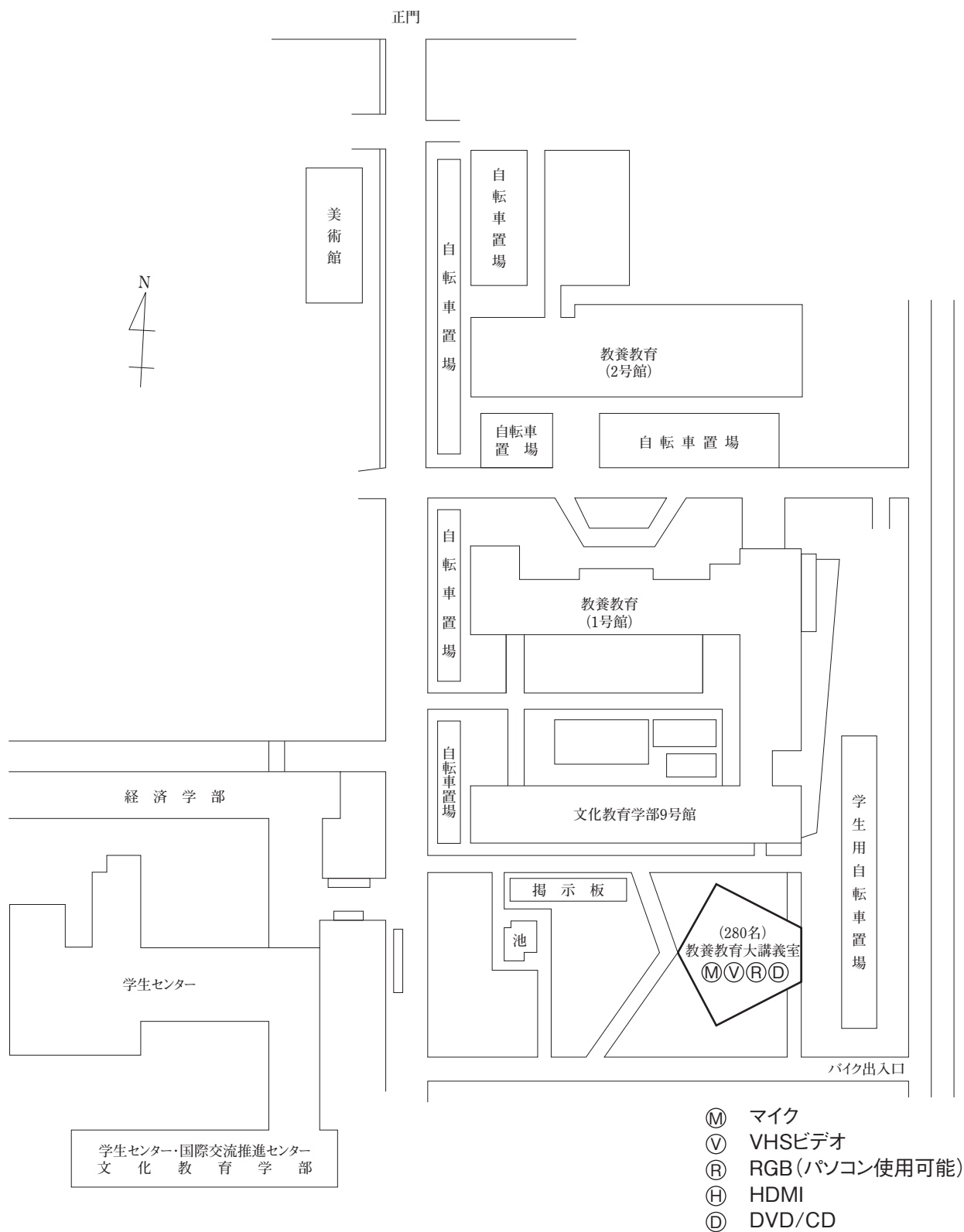
佐賀大学長 ○ ○ ○ ○ （印）

全学教育機構配置図

全学教育機構周辺建物配置図



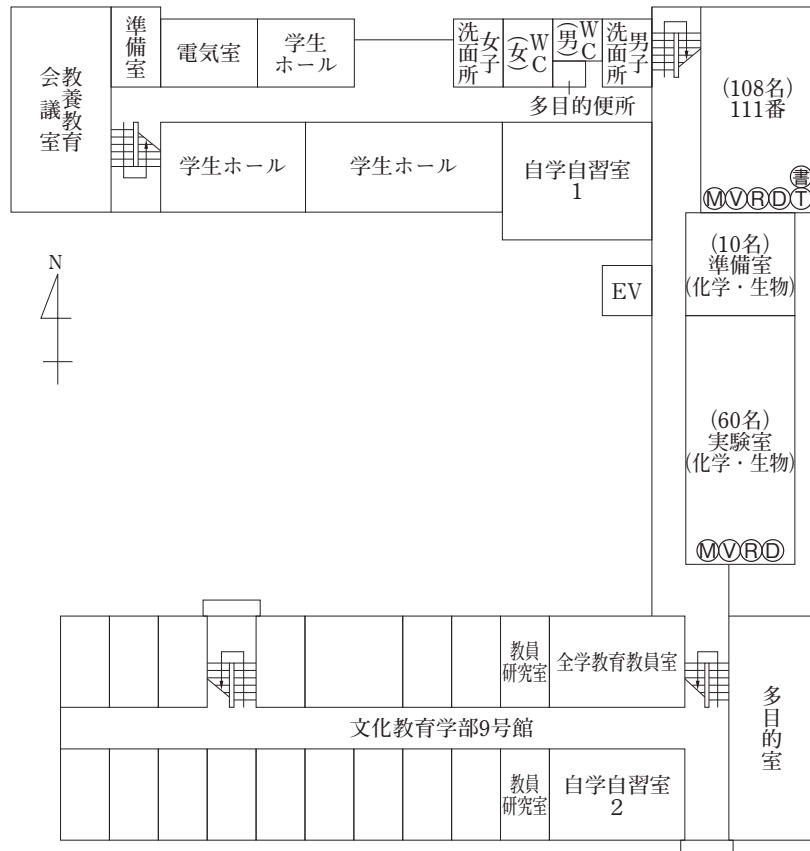
全学教育機構建物等配置図



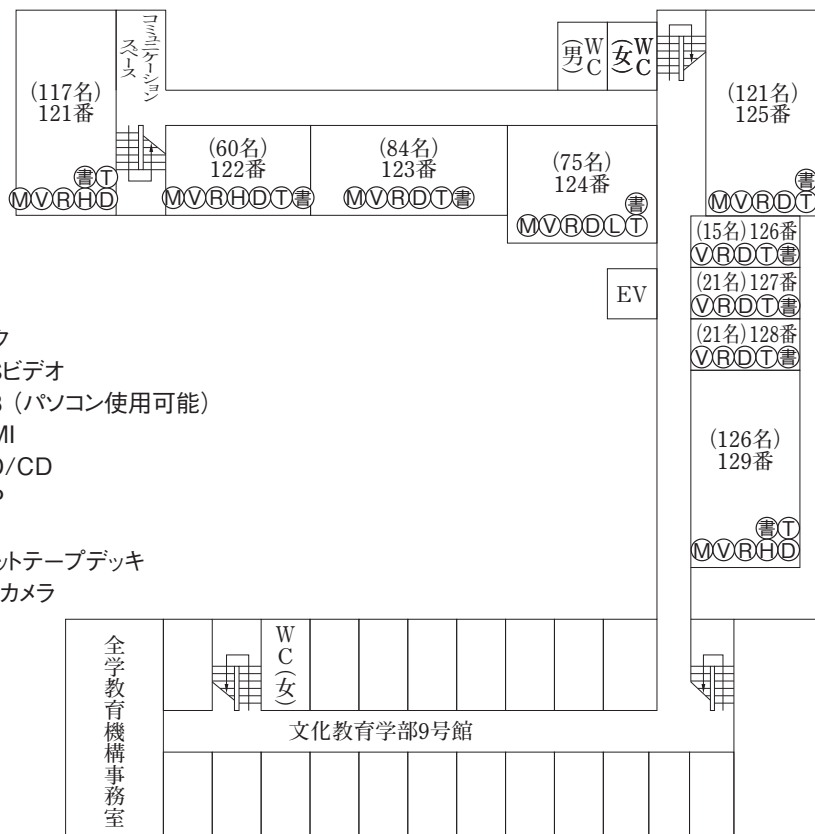
全学教育機構教室配置図

教養教育 1 号館 (文化教育学部 9 号館)

1 階



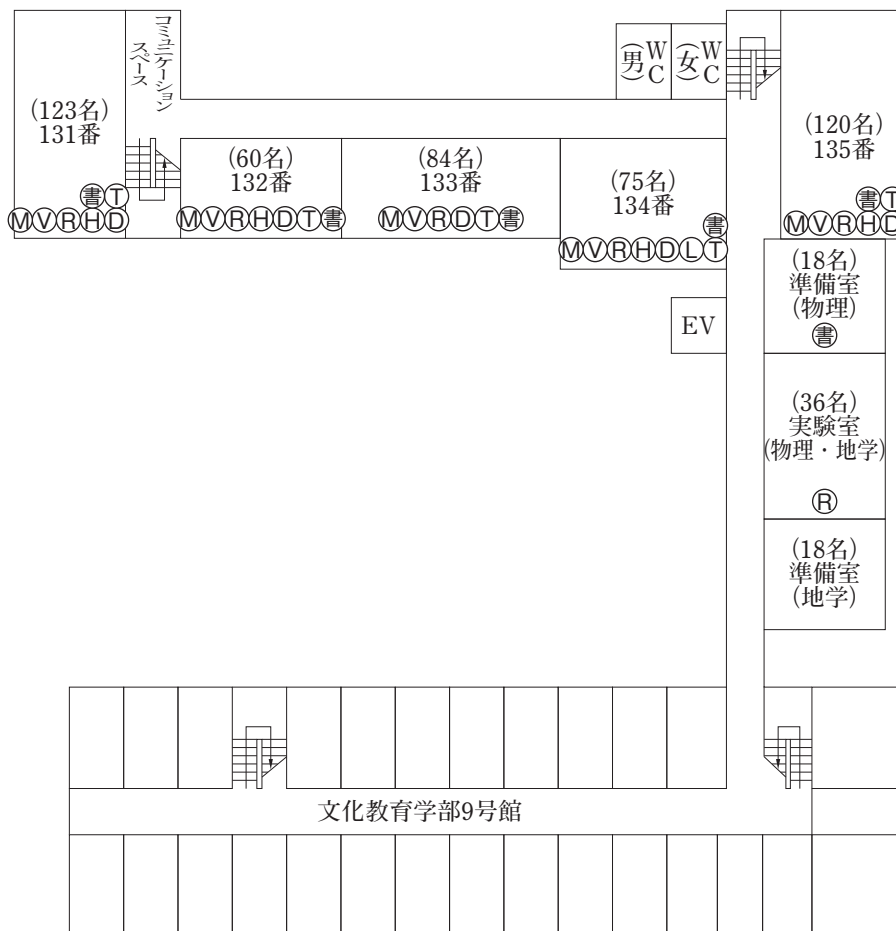
2 階



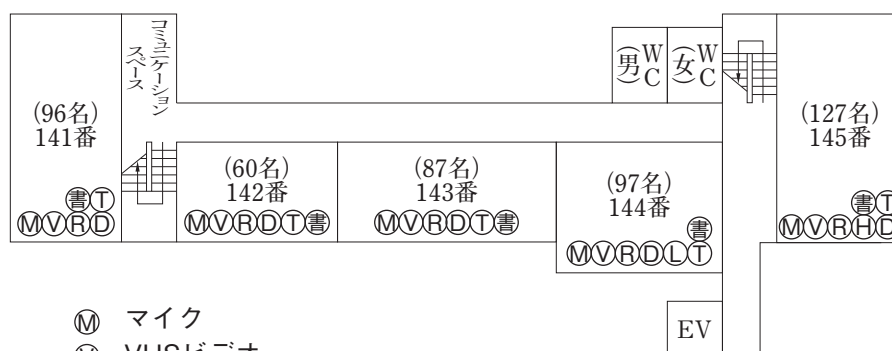
- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓗ HDMI
- ⓓ DVD/CD
- ⓐ OHP
- Ⓛ LAN
- Ⓣ カセットテープデッキ
- 📷 書画カメラ

教養教育 1 号館 (文化教育学部 9 号館)

3 階



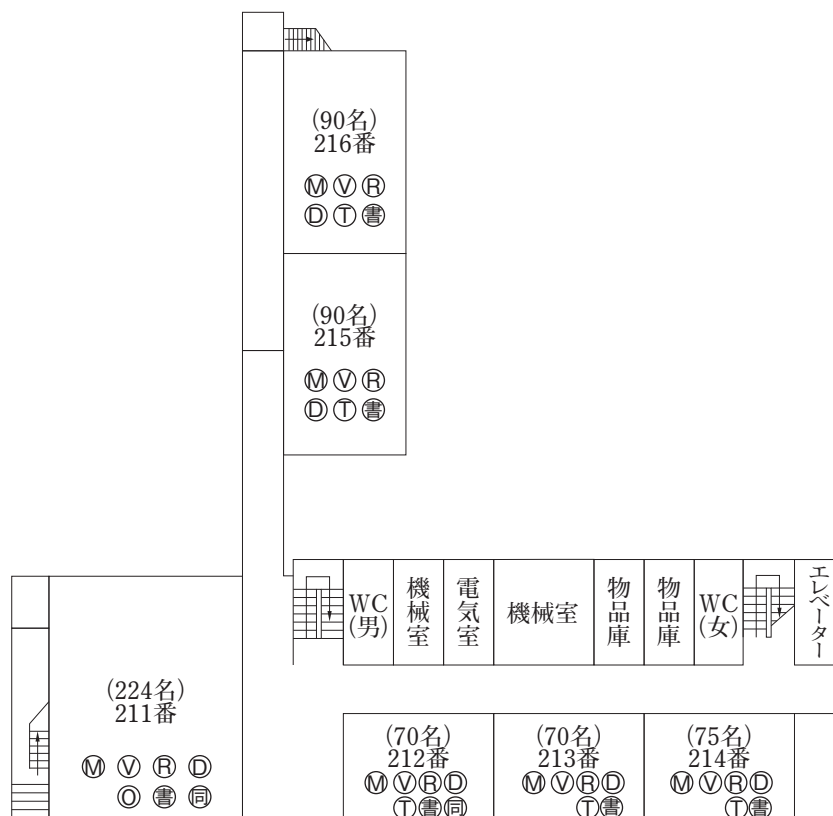
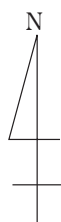
4 階



- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓗ HDMI
- ⓓ DVD/CD
- ⓐ OHP
- Ⓛ LAN
- Ⓣ カセットテープデッキ
- 📷 書画カメラ

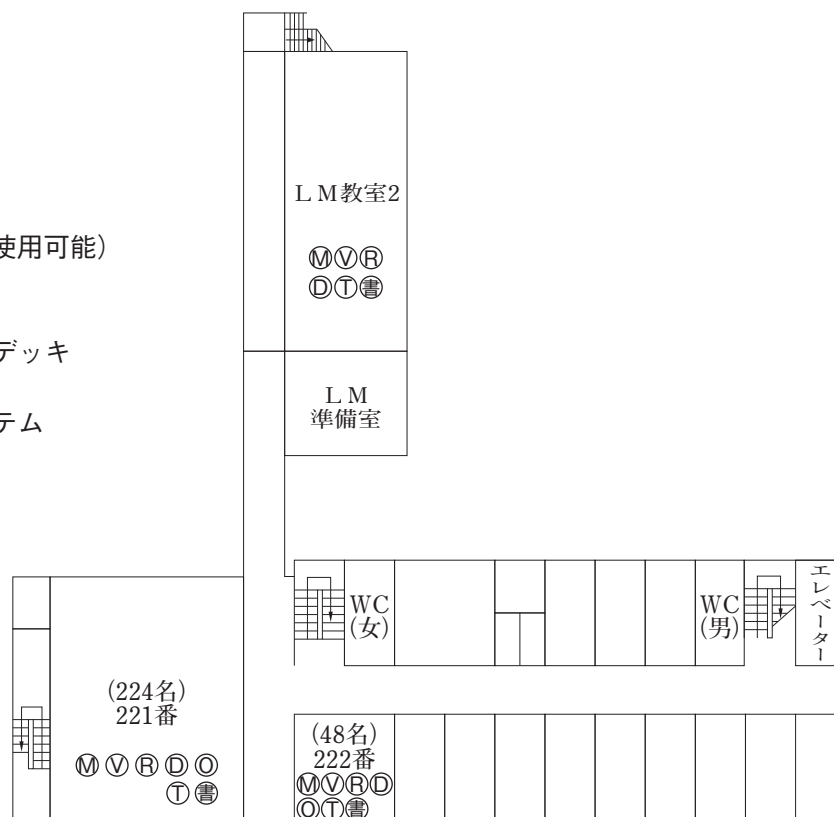
教養教育 2 号館

1 階



2 階

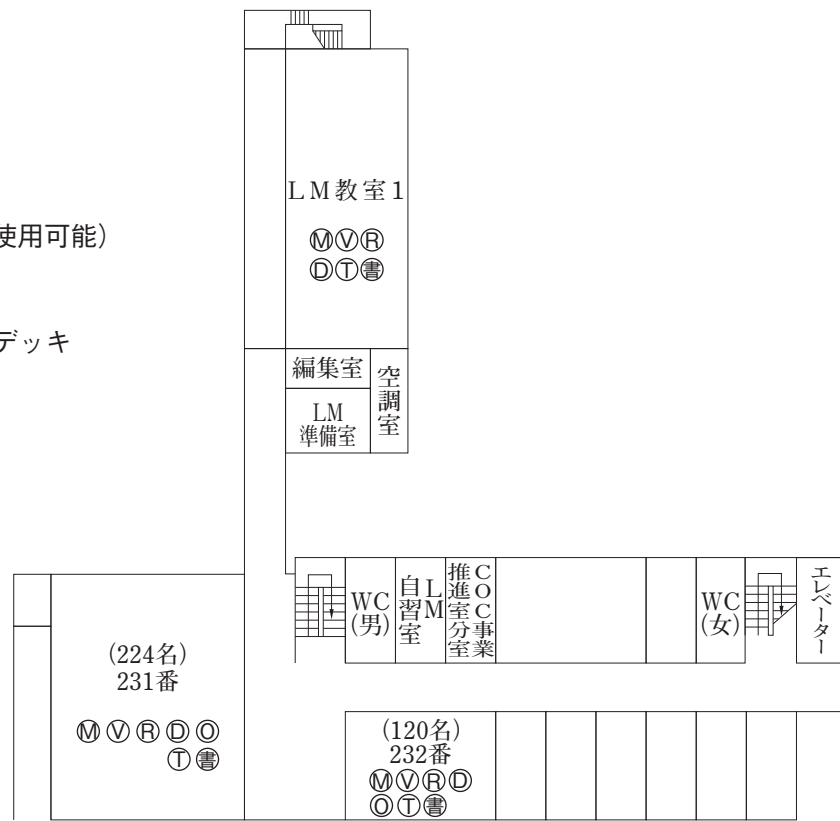
- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓓ DVD/CD
- ⓐ OHP
- Ⓣ カセットテープデッキ
- 書 書画カメラ
- 同 同期型遠隔システム



教養教育 2 号館

3 階

- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓓ DVD/CD
- Ⓢ OHP
- Ⓣ カセットテープデッキ
- Ⓢ 書画カメラ



4 階



全学教育機構 履修の手引き

平成26年 4 月

編集発行 佐賀大学全学教育機構

佐賀市本庄町 1 番地

T E L 0952 (28) 8817

印 刷 (株)昭和堂 佐賀営業所

佐賀市高木瀬西 3 丁目 9 - 1

T E L 0952 (33) 1221
